

# 出雲市公共下水道標準図

## 図 面 目 次

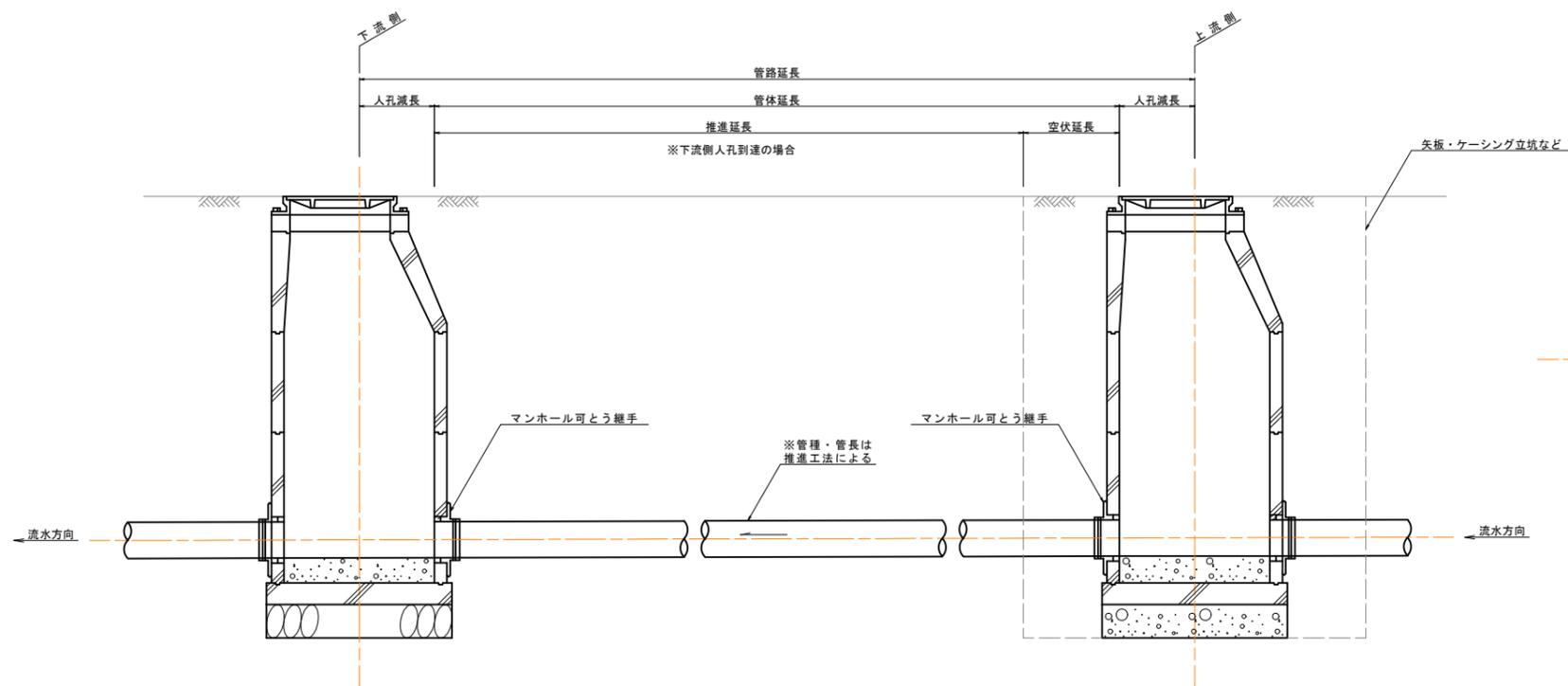
図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
標準図		様式	
1	管布設工標準図	1	合成図
2	0号組立マンホール構造図	2	設計一覧表
3	楕円組立マンホール構造図	3	設計一覧表（記入例）
4	1号組立マンホール構造図		
5	2号組立マンホール構造図		
6	小型(塩ビ製)マンホール構造図		
7	鉄蓋表面デザイン図（φ600）		
8	鉄蓋表面デザイン図（φ300）		
9	マンホール鉄蓋蝶番及び足掛金物位置図、組立マンホール底部工標準図		
10	副管標準図(1)		
11	副管標準図(2)		
12	土工標準図		
13	公共ます及び取付管標準図(本管取付)		
14	公共ます及び取付管標準図(人孔取付)		
15	舗装復旧図		
16	土留工標準図（軽量鋼矢板打込）（参考図）		
17	土留工標準図（軽量鋼矢板建込）（参考図）		
18	土留工標準図（建込簡易土留）（参考図）		

作成年月…平成24年 1月（初版）  
 作成年月…平成24年11月（第1回改定版）  
 作成年月…平成26年 5月（第2回改定版）  
 作成年月…平成29年 4月（第3回改定版）  
 作成年月…平成30年 4月（第3回修正版）  
 作成年月…令和 2年 4月（第3回修正版）  
 作成年月…令和 3年 4月（第4回改訂版）

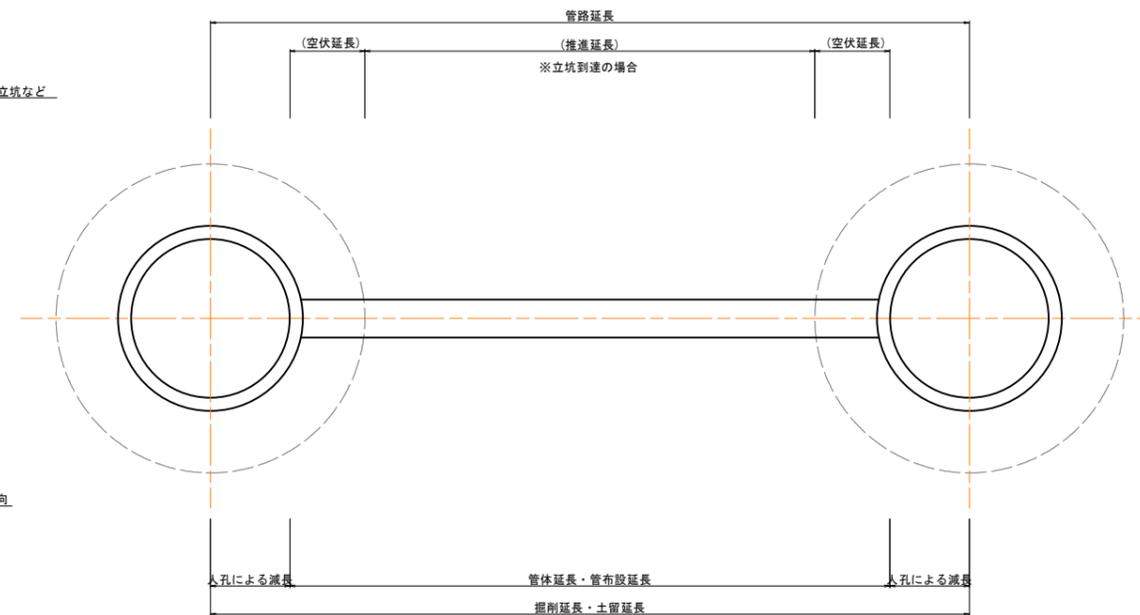
# 管布設工標準図

S=1/20

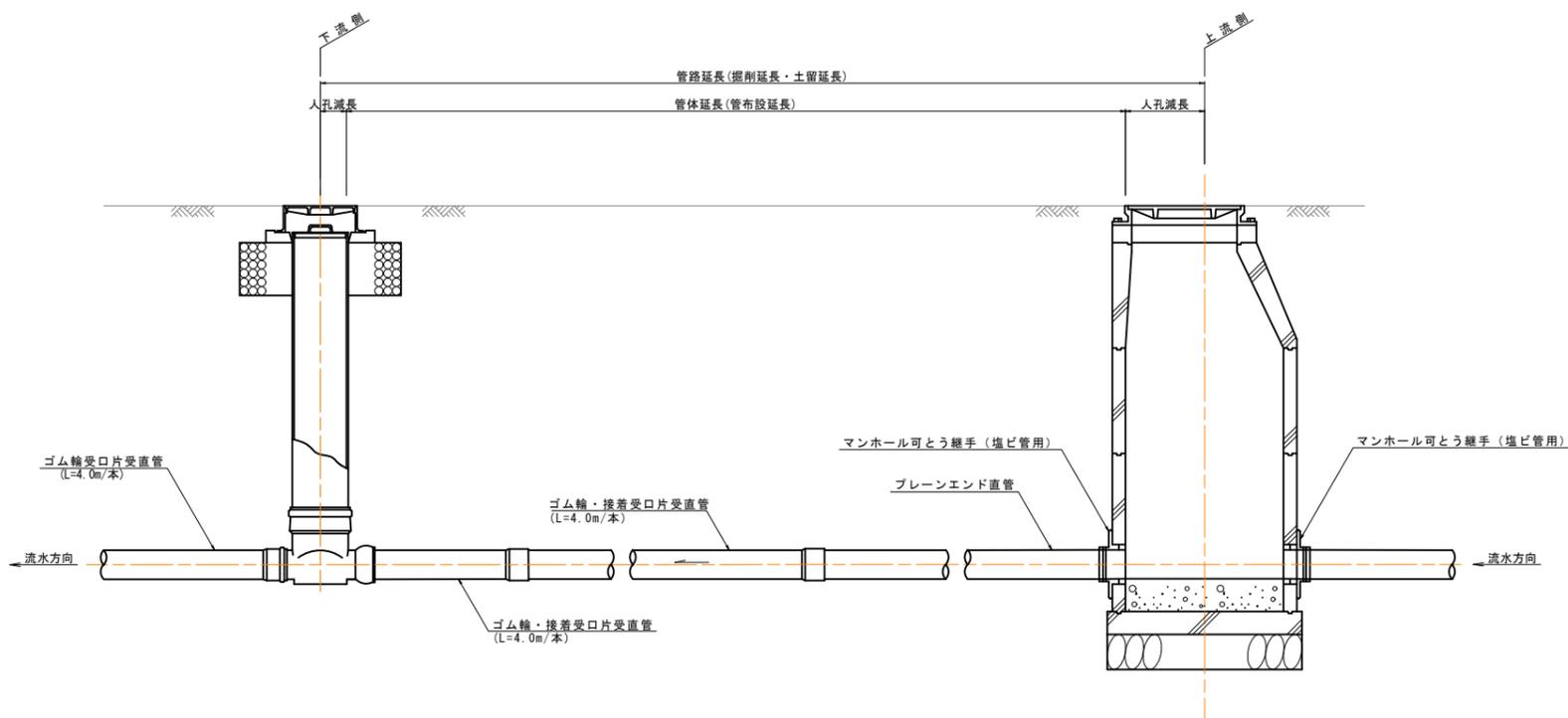
## 推進工法の場合



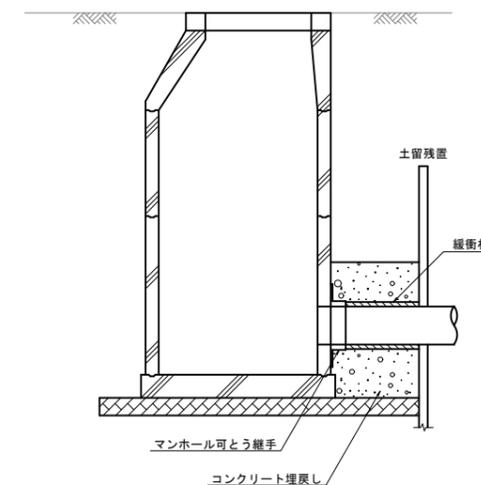
## 延長の考え方について



## 開削工法の場合



## 立坑内コンクリート埋戻の場合について



※空伏せ部でコンクリート埋戻しを実施する場合は、可とう部の機能を妨げないように施工上注意する。

### 特記事項

1. 埋設テープは、本管・取付管および圧送管に、直接貼り付けること。
2. 圧送管の埋設シートの規格は、150mm幅のビニール製のダブル構造とする。
3. 敷設位置は、圧送管の上、300mmまたは、路盤下とする。

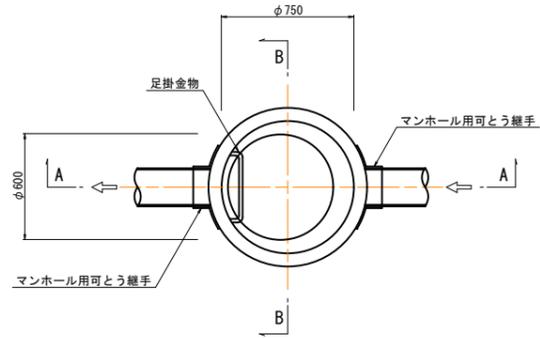
### 出雲市公共下水道事業 標準図

標準図番号	標準図 1
図面名称	管布設工標準図
図面番号	全 葉の内

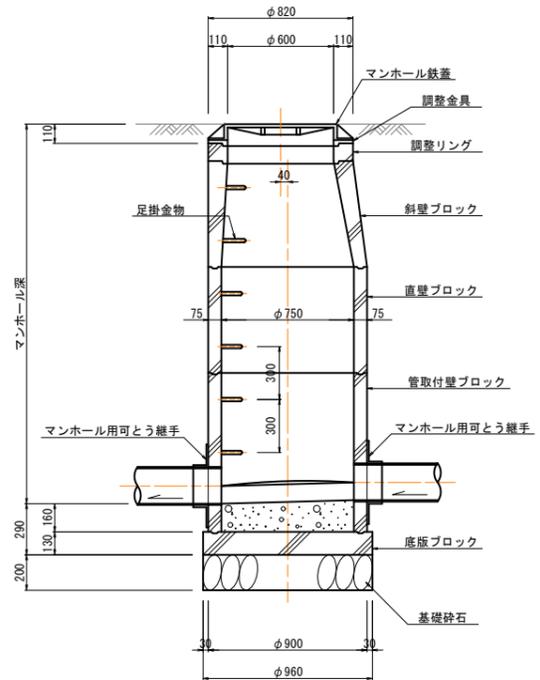
# 0号組立マンホール構造図

S-1/20

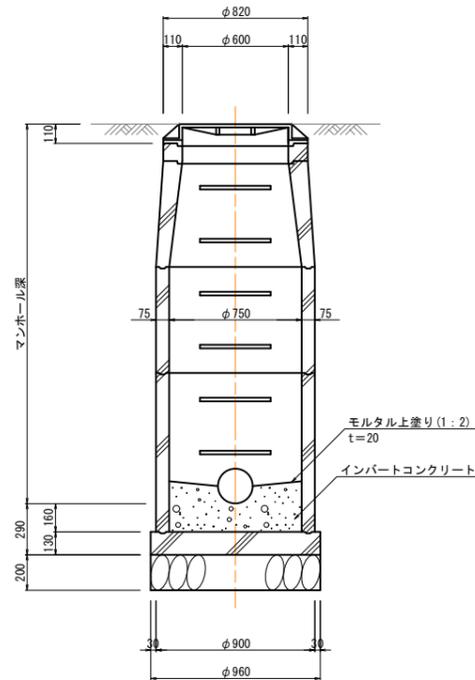
平面図



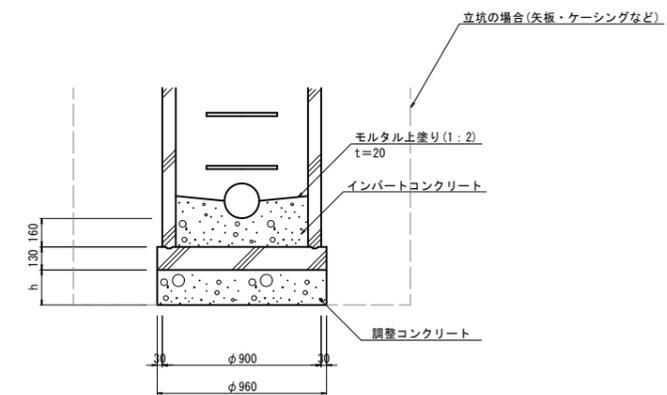
A-A断面図



B-B断面図



立坑内底部工詳細図



特記事項

- リングについて
  - 組立マンホールの調整リングは、必ず1個を設置する。
- 防食加工について
  - マンホールポンプ室および圧送先となる最初のマンホール（蓋についても同様）については、防食加工をする。
  - 防食加工の方法は、セラミックライニングまたは、レジン製マンホールとする。

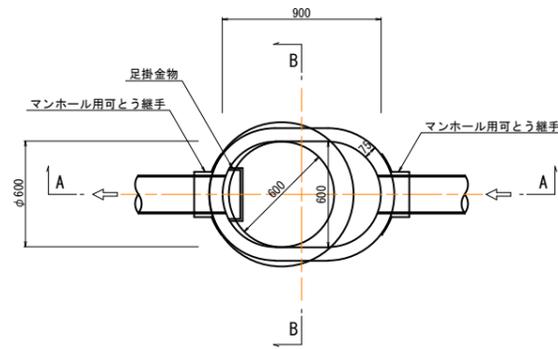
出雲市公共下水道事業 標準図

標準図番号	標準図 2
図面名称	0号組立マンホール構造図
図面番号	全 葉の内

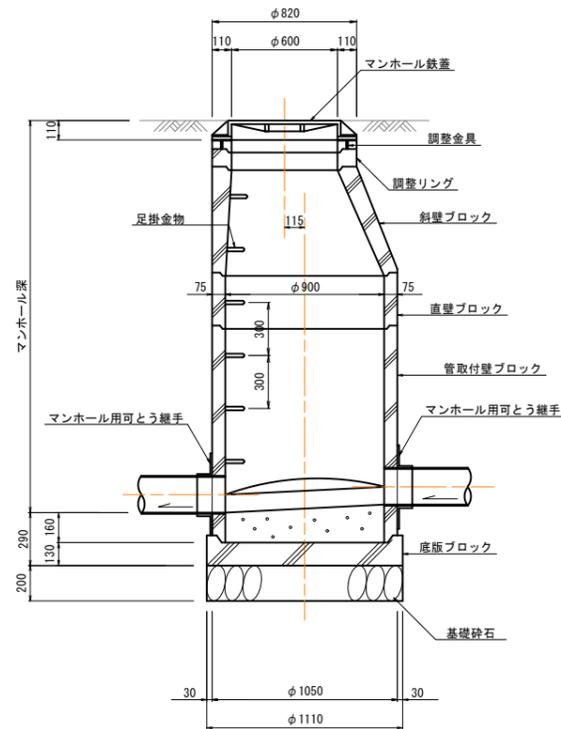
# 楕円組立マンホール構造図

S-1/20

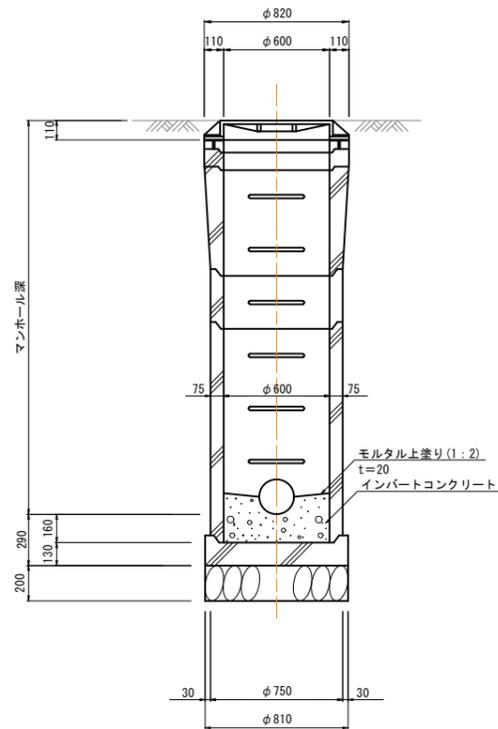
平面図



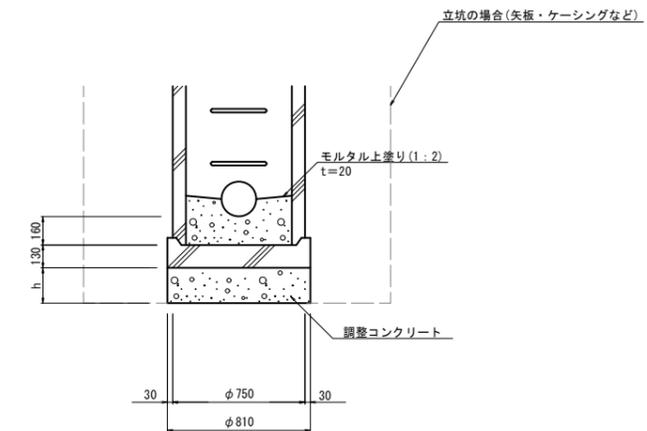
A-A断面図



B-B断面図



立坑内底部工詳細図



## 特記事項

- リングについて
  - 組立マンホールの調整リングは、必ず1個を設置する。
- 防食加工について
  - マンホールポンプ室および圧送先となる最初のマンホール（蓋についても同様）については、防食加工をする。
  - 防食加工の方法は、セラミックライニングまたは、レジン製マンホールとする。

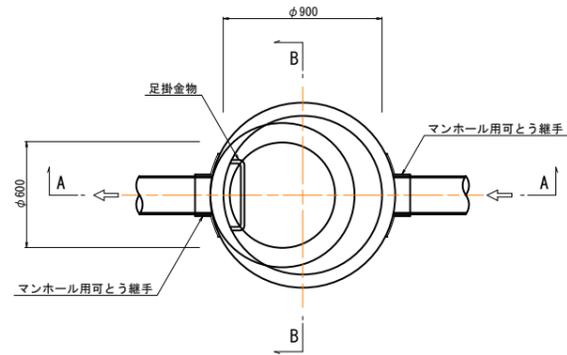
## 出雲市公共下水道事業 標準図

標準図番号	標準図 3
図面名称	楕円組立マンホール構造図
図面番号	全 葉の内

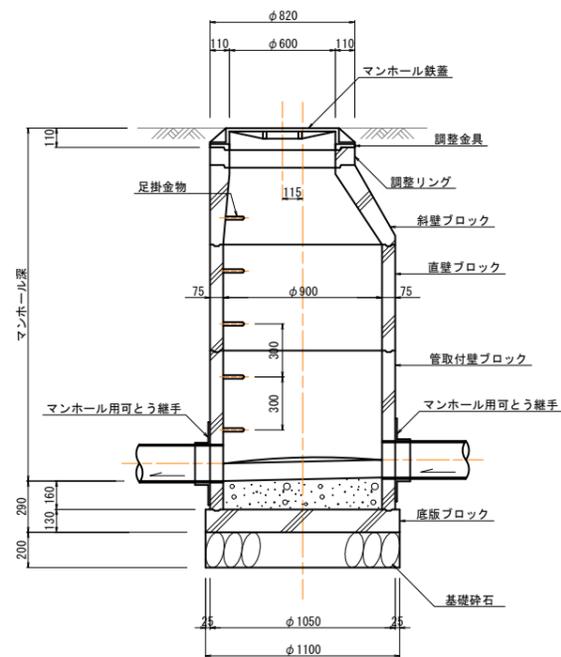
# 1号組立マンホール構造図

S=1/20

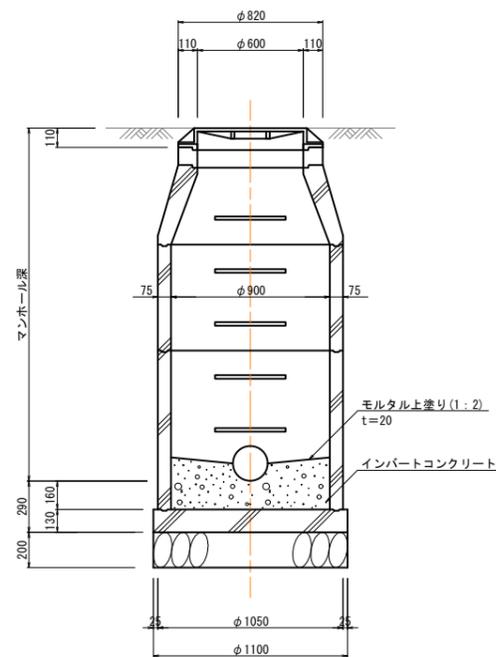
平面図



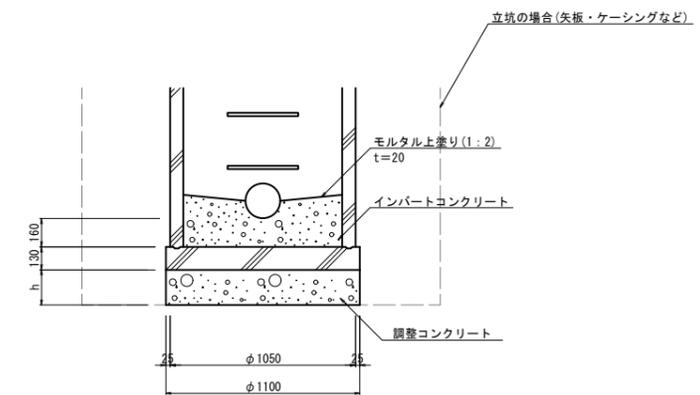
A-A断面図



B-B断面図



立坑内底部工詳細図



特記事項

1. リングについて
  - ・組立マンホールの調整リングは、必ず1個を設置する。
2. 防食加工について
  - ・マンホールポンプ室および圧送先となる最初のマンホール（蓋についても同様）については、防食加工をする。
  - ・防食加工の方法は、セラミックライニングまたは、レジン製マンホールとする。

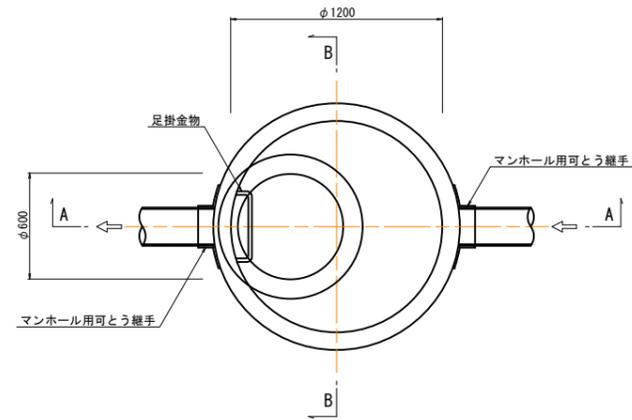
出雲市公共下水道事業 標準図

標準図番号	標準図 4
図面名称	1号組立マンホール構造図
図面番号	全 葉の内

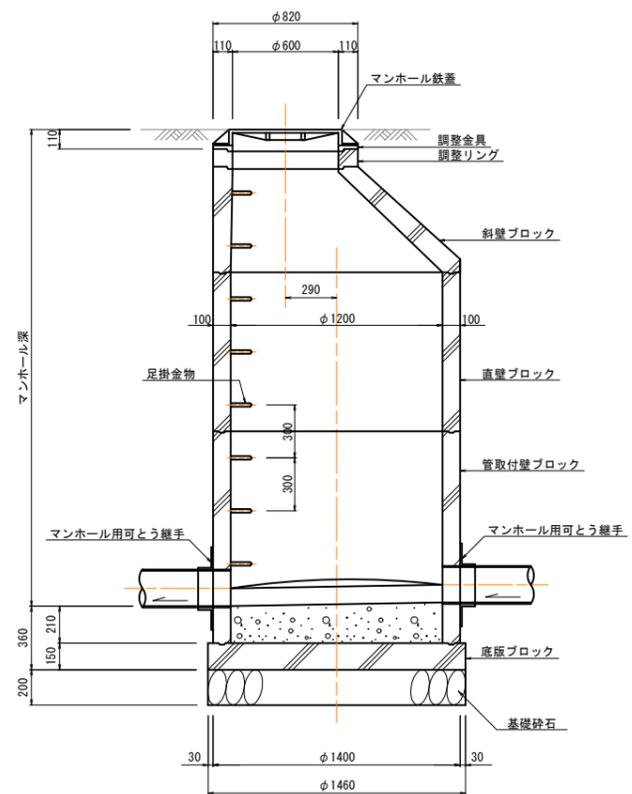
# 2号組立マンホール構造図

S-1/20

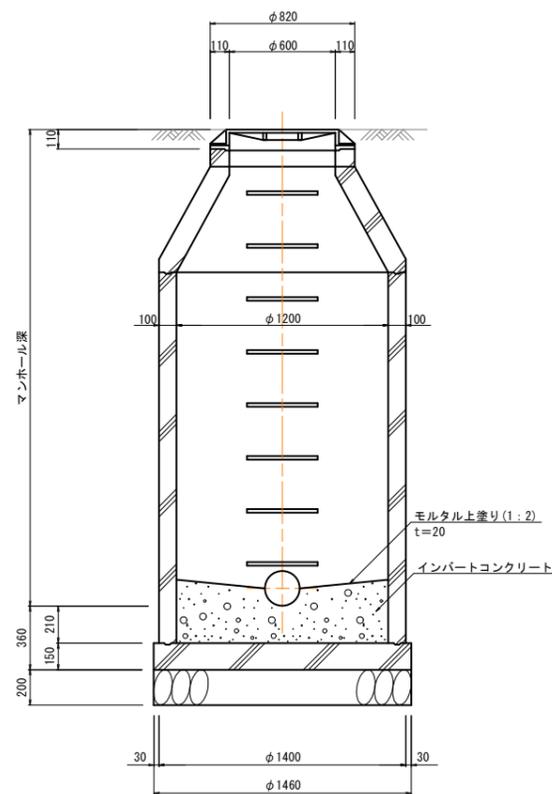
平面図



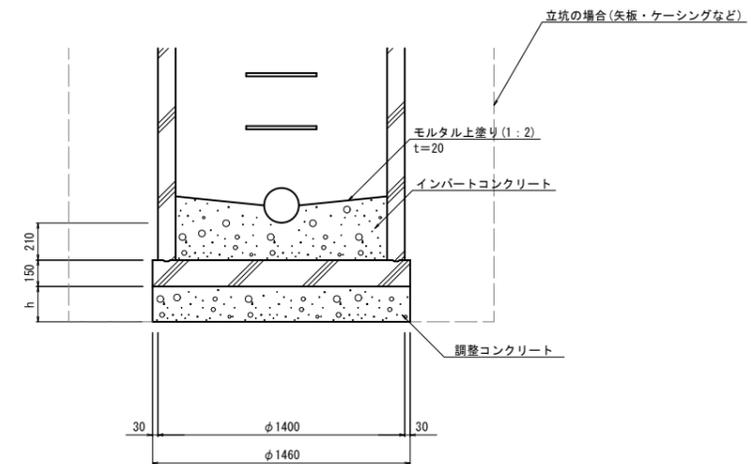
A-A断面図



B-B断面図



立坑内底部工詳細図



特記事項

1. リングについて
  - ・組立マンホールの調整リングは、必ず1個を設置する。
2. 防食加工について
  - ・マンホールポンプ室および圧送先となる最初のマンホール（蓋についても同様）については、防食加工をする。
  - ・防食加工の方法は、セラミックライニングまたは、レジン製マンホールとする。

出雲市公共下水道事業 標準図

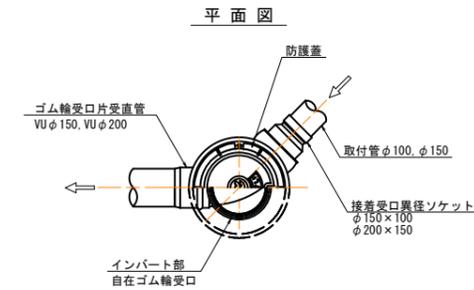
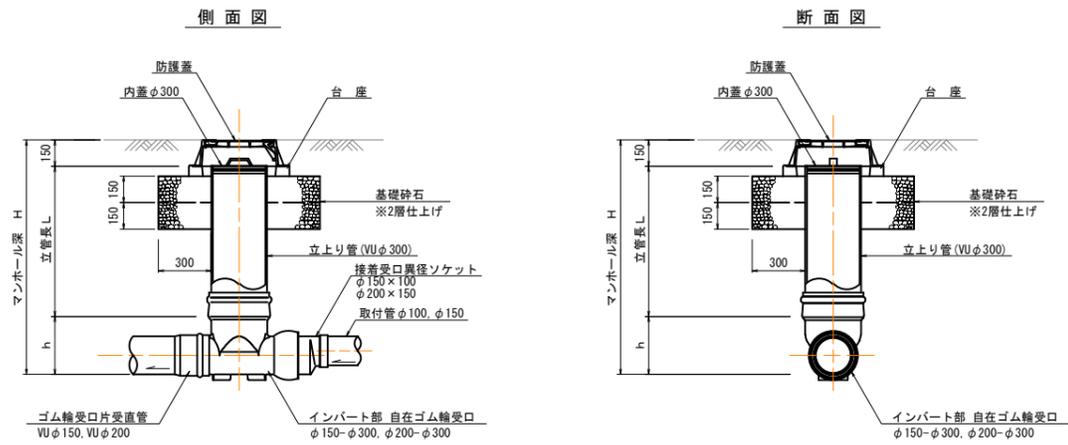
標準図番号	標準図 5
図面名称	2号組立マンホール構造図
図面番号	全 葉の内

# 小型(塩ビ製)マンホール構造図

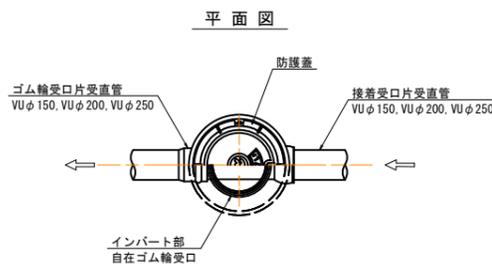
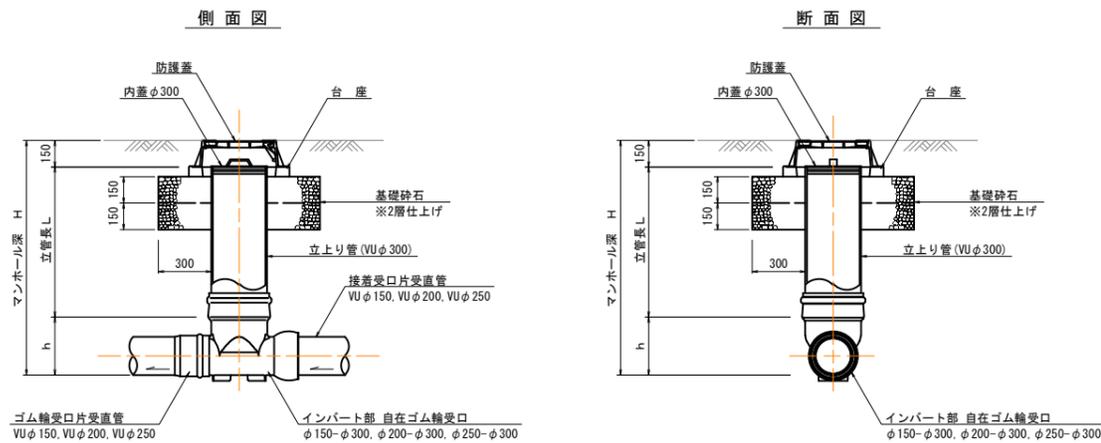
## 標準構造図

S=1/20

### 起点部



### 中間部



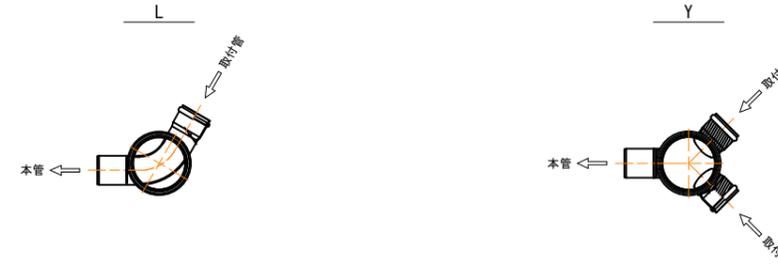
小型マンホール(塩ビ製)寸法表

インバート	h (mm)	L (mm)
φ150-φ300	230	H-380
φ200-φ300	255	H-405
φ250-φ300	310	H-460

## インバート参考図

NONSCAL

### 起点部



### 中間部



### 特記事項

1. 会合点は、1号マンホール以上とする。
2. 小型マンホールの間は、原則、1号マンホール以上とする。
3. 小型マンホール深さ(H)は、2.0m未満とする。
4. 管底高に段差ができる場合・将来本管流入の可能性がある場合は、小型マンホールは使用しない。
5. 県道車道部に、小型マンホールを設置する場合は、T-25を使用すること。

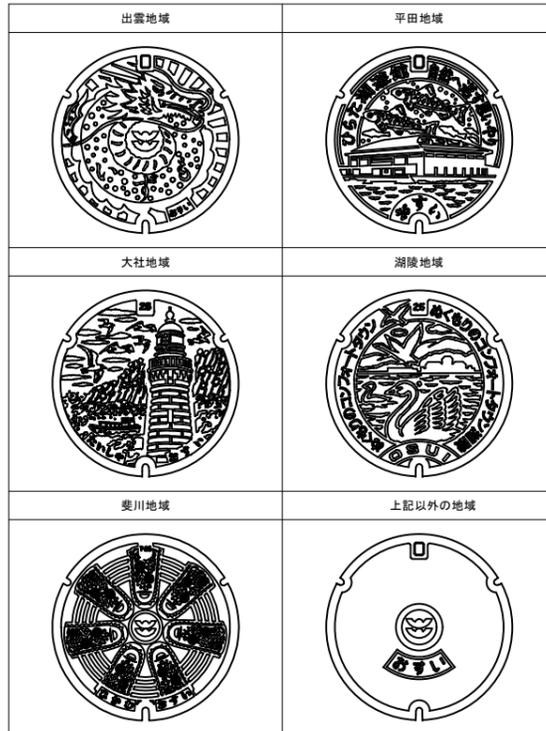
### 出雲市公共下水道事業 標準図

標準図番号	標準図 6
図面名称	小型(塩ビ製)マンホール構造図
図面番号	全 葉の内

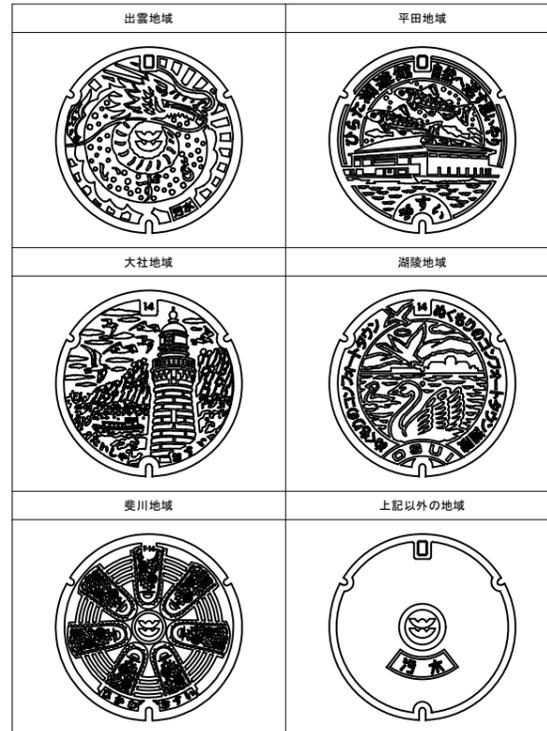
# 鉄蓋表面デザイン図(φ600)

(φ900-φ600の子蓋を兼ねる) NONSCAL

ふたの表面デザイン(T-25)



ふたの表面デザイン(T-14)



○鉄蓋の適用(φ600)

荷重	車道		歩道および民地	
	2車線以上	1車線	大型車両の乗り入れがある場合	大型車両の乗り入れがない場合
25t	○			
14t		○	○	○

※ただし、道路管理者より、指示を受けた場合は、この限りではない。

### 特記事項

- 鉄蓋については、出雲市の承認済のものを使用する。
- 上記以外の地域のデザインについては、出雲市において承認を受けている各製造業者の承認デザインによるものとする。
- 各蓋の表面デザインに伴う縦番部の形状及び荷重表示については、各製造業者が出雲市の承認を受けているものとする。
- マンホール深が2.0mを超える場合には、梯子付転落防止装置を設置する。

### 出雲市公共下水道事業 標準図

標準図番号	標準図 7
図面名称	鉄蓋表面デザイン図(φ600)
図面番号	全 葉の内

# 鉄蓋表面デザイン図(φ300)

NONSCAL

## ふたの表面デザイン(T-25)

-下水道用防護蓋 呼び径300-



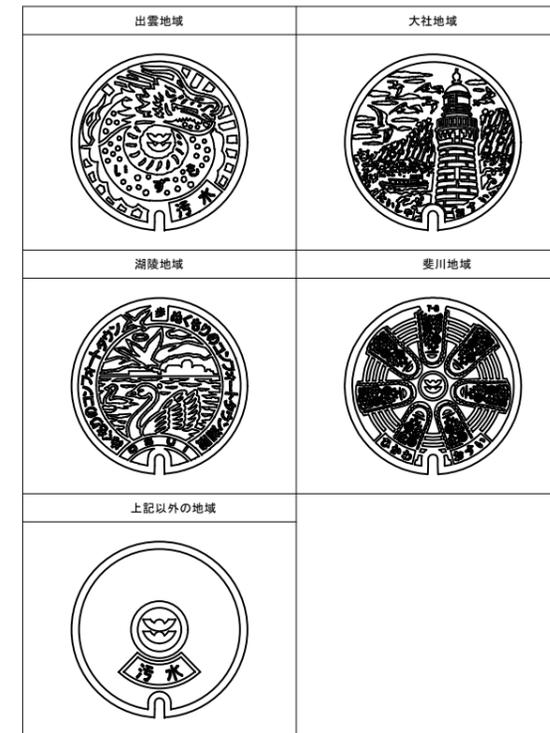
## ふたの表面デザイン(T-14)

-下水道用防護蓋 呼び径300-



## ふたの表面デザイン(T-8)

-下水道用防護蓋 呼び径300-



### ○鉄蓋の適用(φ300)

荷重	車道		歩道および民地	
	2車線以上	1車線	大型車両の乗り入れがある場合	大型車両の乗り入れがない場合
25t	○			
14t		○	○	
8t				○

※ただし、道路管理者より、指示を受けた場合は、この限りではない。  
県道車道部に設置する塩化ビニル製小型マンホール防護蓋は25tとする。

### 特記事項

- 鉄蓋については、出雲市の承認済のものを使用する。
- 上記以外の地域のデザインについては、出雲市において承認を受けている各製造業者の承認デザインによるものとする。
- 各蓋の表面デザインに伴う標識部の形状及び荷重表示については、各製造業者が出雲市の承認を受けているものとする。

### 出雲市公共下水道事業 標準図

標準図番号	標準図 8
図面名称	鉄蓋表面デザイン図(φ300)
図面番号	全 葉の内

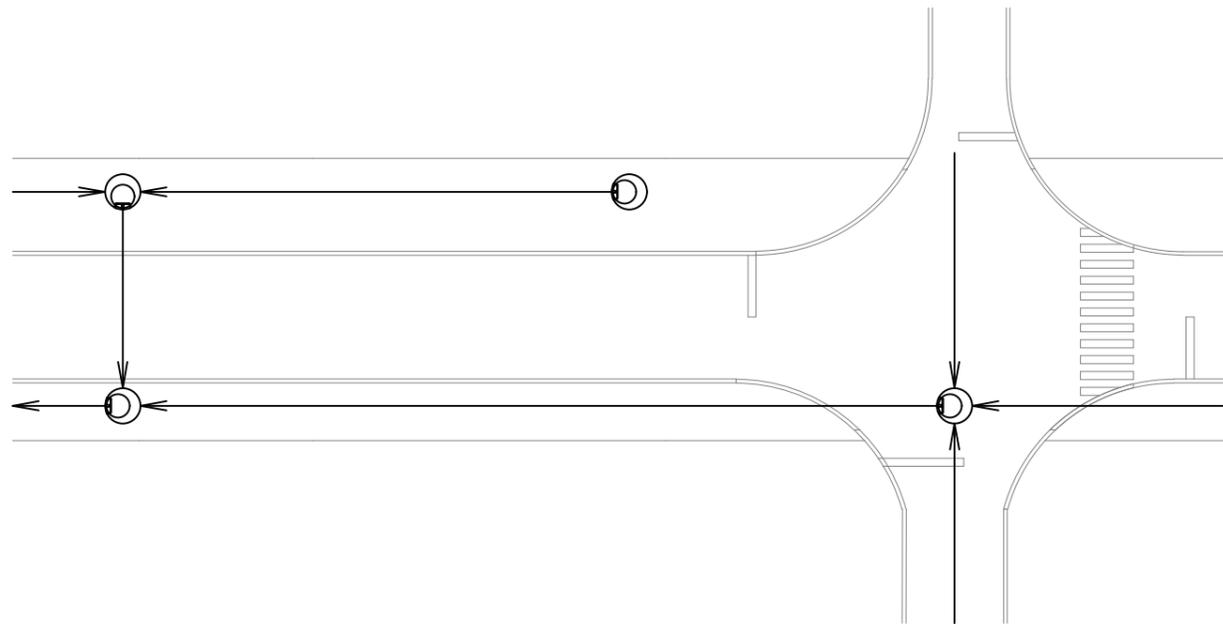
# マンホール鉄蓋蝶番及び足掛金物位置図

NONSCAL

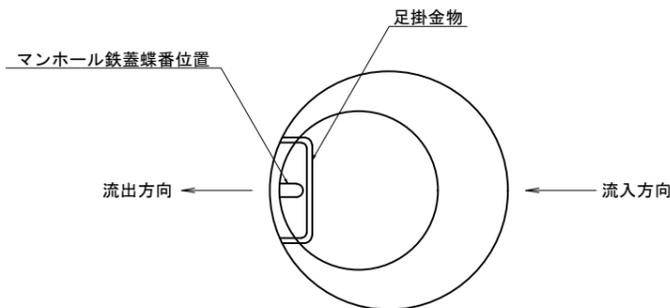
# 組立マンホール底部工標準図

NONSCAL

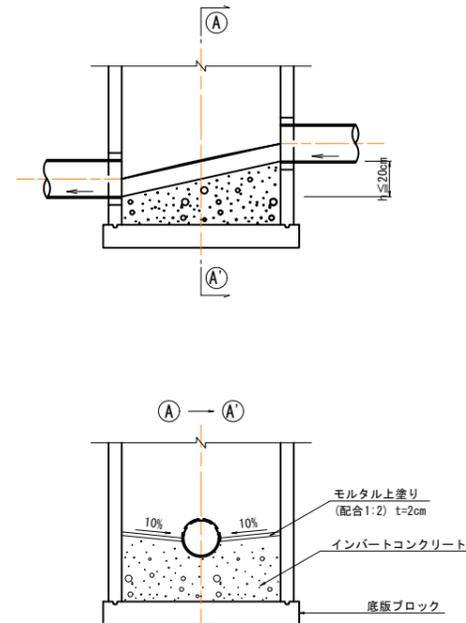
## 配置例



## 凡例

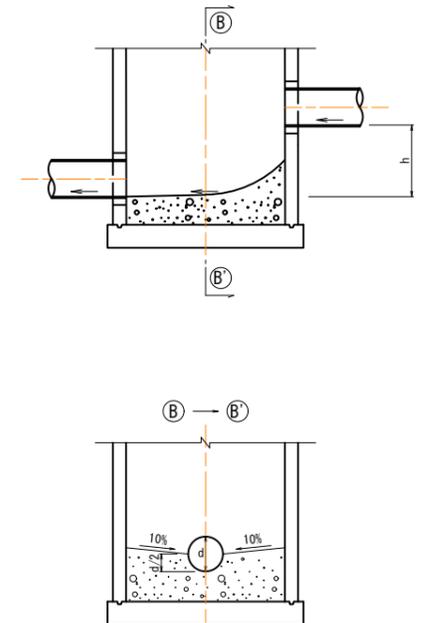


## 上下流落差 (h) が20cm以下の場合



起点部

## 上下流落差 (h) が20cmを超え60cm未満の場合



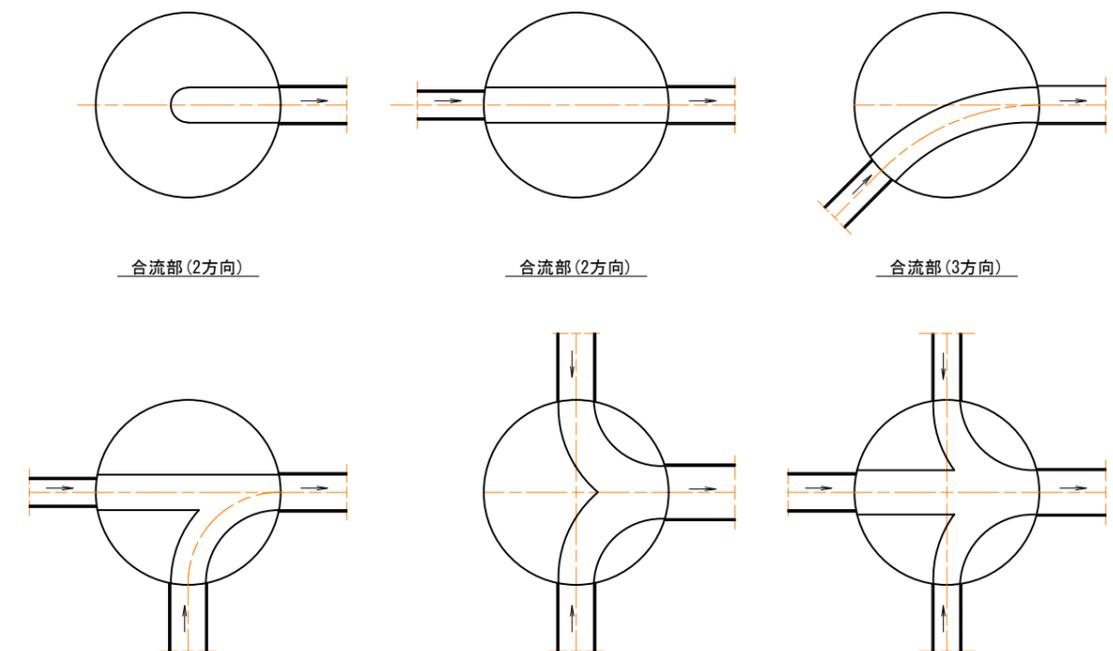
屈曲部

## 組立マンホール底部工数量表

(1箇所当り)

名称	インバートコンクリート (m <sup>3</sup> )		モルタル上塗り工 (配合 1:2) t=2cm (m <sup>2</sup> )		基礎工 (m <sup>2</sup> )	
	20cm以下	20cmを超え	20cm以下	20cmを超え		
0号マンホール	φ150	0.10	0.14	0.51	0.54	0.72
	φ200	0.10	0.15	0.53	0.56	
	φ250	0.11	0.15	0.55	0.58	
	φ300	0.11	0.15	0.57	0.61	
	φ350	0.11	0.16	0.59	0.63	
楕円マンホール	φ150	0.10	0.15	0.54	0.56	0.67
	φ200	0.11	0.15	0.57	0.59	
	φ250	0.11	0.16	0.59	0.61	
	φ300	0.11	0.16	0.62	0.64	
	φ350	0.11	0.16	0.64	0.67	
1号マンホール	φ150	0.14	0.21	0.71	0.75	0.95
	φ200	0.15	0.22	0.74	0.77	
	φ250	0.16	0.22	0.76	0.80	
	φ300	0.17	0.23	0.79	0.83	
	φ350	0.17	0.23	0.82	0.85	
2号マンホール	φ150	0.31	0.42	1.23	1.27	1.67
	φ200	0.33	0.45	1.27	1.30	
	φ250	0.35	0.46	1.30	1.33	
	φ300	0.37	0.48	1.34	1.37	
	φ350	0.38	0.49	1.37	1.40	
φ400	0.39	0.50	1.41	1.44		

## インバート施工図



## 特記事項

1. 管口の処理は、マンホールの内面と一体となるようきれいに処理すること。
2. インバート表面処理は、きれいに処理すること。
3. 上下流落差 (h) が20cmまでは、上下流をつなげるようにする。
4. 上下流落差 (h) が20cmを超え60cm未満の場合は、上流と下流を極力なだらかに押し付けること。(屈曲部、合流部については、監督員と協議のうえ、決定すること。)
5. インバート直線部については、下流側の管径とする。
6. 足掛金物は原則下流に設置するが、将来計画管の流入位置を考慮して設置すること。

## 出雲市公共下水道事業 標準図

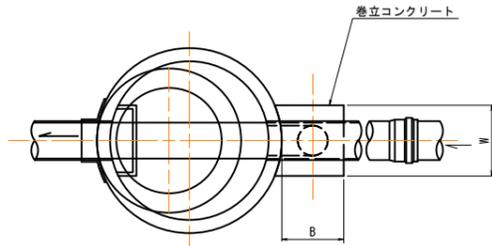
標準図番号	標準図 9
図面名称	マンホール鉄蓋蝶番及び足掛金物位置図、組立マンホール底部工標準図
図面番号	全 葉の内

# 副管標準図(1)

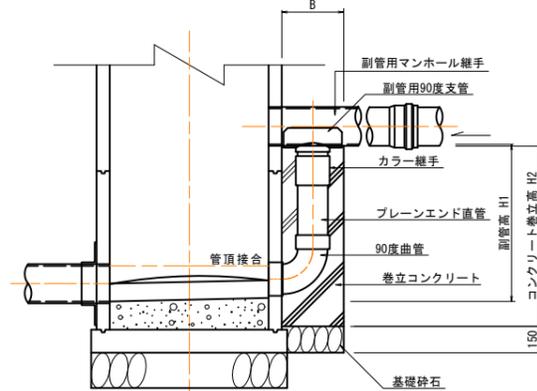
S=1/20

## 外副管 (A-1タイプ)

平面図

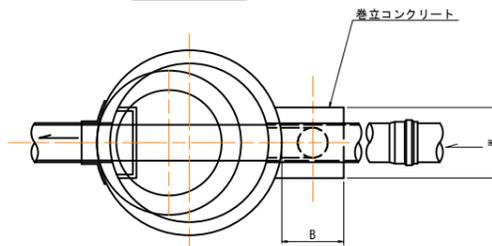


断面図

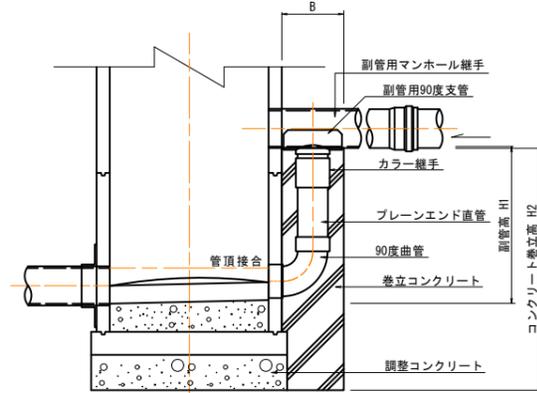


## 外副管 (A-2タイプ)

平面図

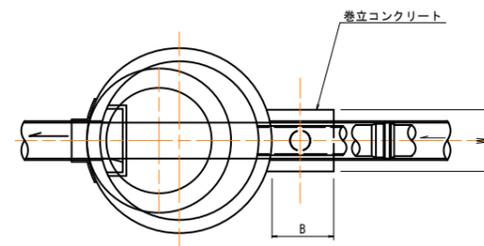


断面図

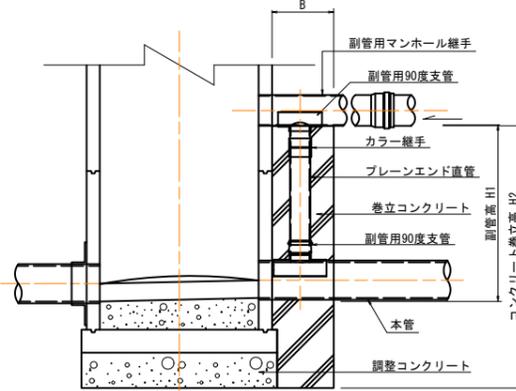


## 外副管 (B-2タイプ)

平面図



断面図

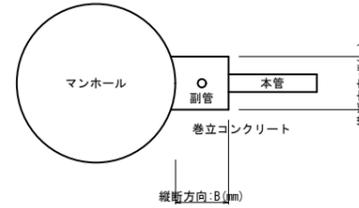


B-2タイプ 数量表 (1箇所当り)

副管号	副管高 (m)	本管径φ150-副管径φ100 (B-2-1-1)		本管径φ200-副管径φ100 (B-2-1-2)	
		コンクリート (m <sup>3</sup> )	型枠 (m <sup>2</sup> )	コンクリート (m <sup>3</sup> )	型枠 (m <sup>2</sup> )
60	0.60	0.068	0.77	0.091	0.89
70	0.70	0.076	0.86	0.102	0.99
80	0.80	0.084	0.95	0.113	1.10
90	0.90	0.092	1.04	0.125	1.20
100	1.00	0.100	1.13	0.136	1.31
110	1.10	0.108	1.22	0.147	1.41
120	1.20	0.116	1.31	0.158	1.52
130	1.30	0.124	1.40	0.170	1.62
140	1.40	0.132	1.49	0.181	1.73
150	1.50	0.140	1.58	0.192	1.83
160	1.60	0.148	1.67	0.203	1.94
170	1.70	0.156	1.76	0.215	2.04
180	1.80	0.164	1.85	0.226	2.15
190	1.90	0.172	1.94	0.237	2.25
200	2.00	0.180	2.03	0.248	2.36
210	2.10	0.188	2.12	0.260	2.46
220	2.20	0.196	2.21	0.271	2.57
230	2.30	0.204	2.30	0.282	2.67
240	2.40	0.212	2.39	0.293	2.78
250	2.50	0.220	2.48	0.305	2.88
260	2.60	0.228	2.57	0.316	2.99
270	2.70	0.236	2.66	0.327	3.09
280	2.80	0.244	2.75	0.338	3.20
290	2.90	0.252	2.84	0.350	3.30
300	3.00	0.260	2.93	0.361	3.41

外副管標準寸法表

本管径	副管径	コンクリート巻立標準寸法	
		縦断方向:B	横断方向:W
150	100	300	300
200	150	350	350
250	200	400	400
300	250	450	450



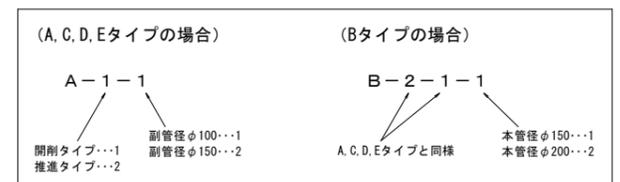
A-1タイプ 数量表 (1箇所当り)

副管号	副管高 (m)	本管径φ150-副管径φ100 (A-1-1)		本管径φ200-副管径φ150 (A-1-2)	
		コンクリート (m <sup>3</sup> )	型枠 (m <sup>2</sup> )	コンクリート (m <sup>3</sup> )	型枠 (m <sup>2</sup> )
60	0.60	0.059	0.66	0.074	0.77
70	0.70	0.067	0.75	0.084	0.87
80	0.80	0.075	0.84	0.094	0.98
90	0.90	0.083	0.93	0.104	1.08
100	1.00	0.091	1.02	0.114	1.19
110	1.10	0.099	1.11	0.125	1.29
120	1.20	0.107	1.20	0.135	1.40
130	1.30	0.115	1.29	0.145	1.50
140	1.40	0.123	1.38	0.154	1.61
150	1.50	0.131	1.47	0.165	1.71
160	1.60	0.139	1.56	0.175	1.82
170	1.70	0.147	1.65	0.185	1.92
180	1.80	0.155	1.74	0.195	2.03
190	1.90	0.163	1.83	0.206	2.13
200	2.00	0.171	1.92	0.216	2.24
210	2.10	0.179	2.01	0.226	2.34
220	2.20	0.187	2.10	0.235	2.45
230	2.30	0.195	2.19	0.246	2.55
240	2.40	0.203	2.28	0.256	2.66
250	2.50	0.211	2.37	0.266	2.76
260	2.60	0.219	2.46	0.276	2.87
270	2.70	0.227	2.55	0.287	2.97
280	2.80	0.235	2.64	0.297	3.08
290	2.90	0.243	2.73	0.306	3.18
300	3.00	0.251	2.82	0.316	3.29

A-2タイプ 数量表 (1箇所当り)

副管号	副管高 (m)	本管径φ150-副管径φ100 (A-2-1)		本管径φ200-副管径φ150 (A-2-2)	
		コンクリート (m <sup>3</sup> )	型枠 (m <sup>2</sup> )	コンクリート (m <sup>3</sup> )	型枠 (m <sup>2</sup> )
60	0.60	0.072	0.79	0.093	0.92
70	0.70	0.080	0.88	0.102	1.03
80	0.80	0.088	0.97	0.112	1.13
90	0.90	0.096	1.06	0.123	1.24
100	1.00	0.104	1.15	0.133	1.34
110	1.10	0.112	1.24	0.143	1.45
120	1.20	0.120	1.33	0.153	1.55
130	1.30	0.128	1.42	0.164	1.66
140	1.40	0.136	1.51	0.173	1.76
150	1.50	0.144	1.60	0.183	1.87
160	1.60	0.152	1.69	0.193	1.97
170	1.70	0.160	1.78	0.204	2.08
180	1.80	0.168	1.87	0.214	2.18
190	1.90	0.176	1.96	0.224	2.29
200	2.00	0.184	2.05	0.234	2.39
210	2.10	0.192	2.14	0.245	2.50
220	2.20	0.200	2.23	0.254	2.60
230	2.30	0.208	2.32	0.264	2.71
240	2.40	0.216	2.41	0.274	2.81
250	2.50	0.224	2.50	0.285	2.92
260	2.60	0.232	2.59	0.295	3.02
270	2.70	0.240	2.68	0.305	3.13
280	2.80	0.248	2.77	0.315	3.23
290	2.90	0.256	2.86	0.325	3.34
300	3.00	0.264	2.95	0.335	3.44

### 副管タイプ 凡例



### 特記事項

- 流入管と流出管の段差が、60cm以上の場合は、副管を設ける。
- 副管は原則、内副管とする。1号マンホールに内副管を設置する場合は、省スペース型とする。

### 出雲市公共下水道事業 標準図

標準図番号	標準図 10
図面名称	副管標準図(1)
図面番号	全 葉の内

# 副管標準図(2)

S=1/20

C-1タイプ 数量表 (1箇所当り)

副管番号	副管高(m)	本管径φ150-副管径φ100 (C-1-1)		本管径φ200-副管径φ150 (C-1-2)	
		コンクリート (m <sup>3</sup> )	型枠 (m <sup>2</sup> )	コンクリート (m <sup>3</sup> )	型枠 (m <sup>2</sup> )
60	0.60	0.035	0.39	0.044	0.45
70	0.70	0.043	0.48	0.054	0.56
80	0.80	0.051	0.57	0.064	0.66
90	0.90	0.059	0.66	0.074	0.77
100	1.00	0.067	0.75	0.084	0.87
110	1.10	0.075	0.84	0.094	0.98
120	1.20	0.083	0.93	0.104	1.08
130	1.30	0.091	1.02	0.114	1.19
140	1.40	0.099	1.11	0.125	1.29
150	1.50	0.107	1.20	0.135	1.40
160	1.60	0.115	1.29	0.145	1.50
170	1.70	0.123	1.38	0.154	1.61
180	1.80	0.131	1.47	0.165	1.71
190	1.90	0.139	1.56	0.175	1.82
200	2.00	0.147	1.65	0.185	1.92
210	2.10	0.155	1.74	0.195	2.03
220	2.20	0.163	1.83	0.206	2.13
230	2.30	0.171	1.92	0.216	2.24
240	2.40	0.179	2.01	0.226	2.34
250	2.50	0.187	2.10	0.235	2.45
260	2.60	0.195	2.19	0.246	2.55
270	2.70	0.203	2.28	0.256	2.66
280	2.80	0.211	2.37	0.266	2.76
290	2.90	0.219	2.46	0.276	2.87
300	3.00	0.227	2.55	0.287	2.97

D-1, D-2タイプ 数量表 (1箇所当り)

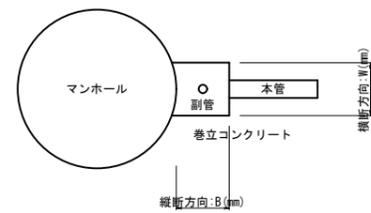
副管番号	巻立高(m)	本管径φ150-副管径φ100 (D-1-1, D-2-1)		本管径φ200-副管径φ150 (D-1-2, D-2-2)	
		コンクリート (m <sup>3</sup> )	型枠 (m <sup>2</sup> )	コンクリート (m <sup>3</sup> )	型枠 (m <sup>2</sup> )
10	0.10	0.008	0.09	0.010	0.11
20	0.20	0.016	0.18	0.021	0.21
30	0.30	0.024	0.27	0.031	0.32
40	0.40	0.032	0.36	0.040	0.42
50	0.50	0.040	0.45	0.050	0.53
60	0.60	0.048	0.54	0.061	0.63
70	0.70	0.056	0.63	0.071	0.74
80	0.80	0.064	0.72	0.081	0.84
90	0.90	0.072	0.81	0.091	0.95
100	1.00	0.080	0.90	0.102	1.05

C-2タイプ 数量表 (1箇所当り)

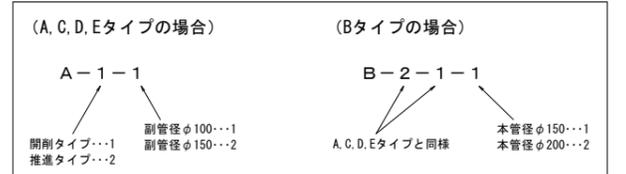
副管番号	副管高(m)	本管径φ150-副管径φ100 (C-2-1)		本管径φ200-副管径φ150 (C-2-2)	
		コンクリート (m <sup>3</sup> )	型枠 (m <sup>2</sup> )	コンクリート (m <sup>3</sup> )	型枠 (m <sup>2</sup> )
60	0.60	0.048	0.52	0.062	0.61
70	0.70	0.056	0.61	0.072	0.71
80	0.80	0.064	0.70	0.083	0.82
90	0.90	0.072	0.79	0.093	0.92
100	1.00	0.080	0.88	0.102	1.03
110	1.10	0.088	0.97	0.112	1.13
120	1.20	0.096	1.06	0.123	1.24
130	1.30	0.104	1.15	0.133	1.34
140	1.40	0.112	1.24	0.143	1.45
150	1.50	0.120	1.33	0.153	1.55
160	1.60	0.128	1.42	0.164	1.66
170	1.70	0.136	1.51	0.173	1.76
180	1.80	0.144	1.60	0.183	1.87
190	1.90	0.152	1.69	0.193	1.97
200	2.00	0.160	1.78	0.204	2.08
210	2.10	0.168	1.87	0.214	2.18
220	2.20	0.176	1.96	0.224	2.29
230	2.30	0.184	2.05	0.234	2.39
240	2.40	0.192	2.14	0.245	2.50
250	2.50	0.200	2.23	0.254	2.60
260	2.60	0.208	2.32	0.264	2.71
270	2.70	0.216	2.41	0.274	2.81
280	2.80	0.224	2.50	0.285	2.92
290	2.90	0.232	2.59	0.295	3.02
300	3.00	0.240	2.68	0.305	3.13

外副管標準寸法表

本管径	副管径	コンクリート巻立標準寸法	
		縦断方向:B	横断方向:W
150	100	300	300
200	150	350	350
250	200	400	400
300	250	450	450



副管タイプ 凡例



特記事項

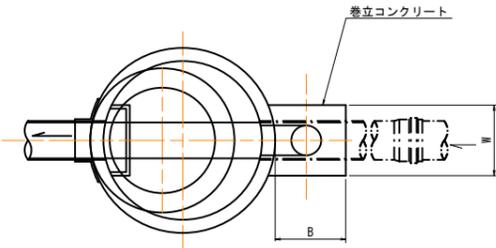
1. 流入管と流出管の段差が、60cm以上の場合は、副管を設ける。
2. 副管は原則、内副管とする。1号マンホールに内副管を設置する場合は、省スペース型とする。

出雲市公共下水道事業 標準図

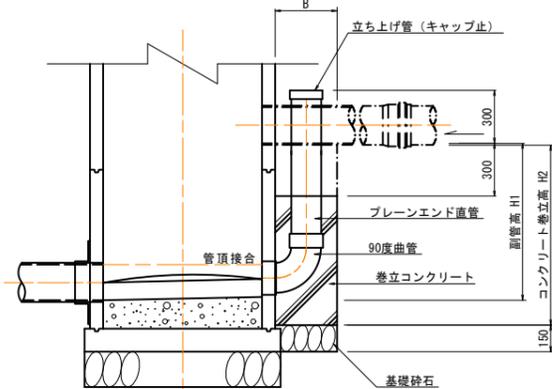
標準図番号	標準図 11
図面名称	副管標準図(2)
図面番号	全 葉の内

外副管 (C-1タイプ)

平面図

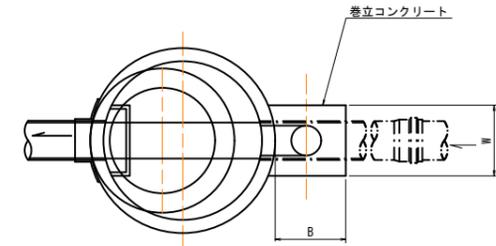


断面図

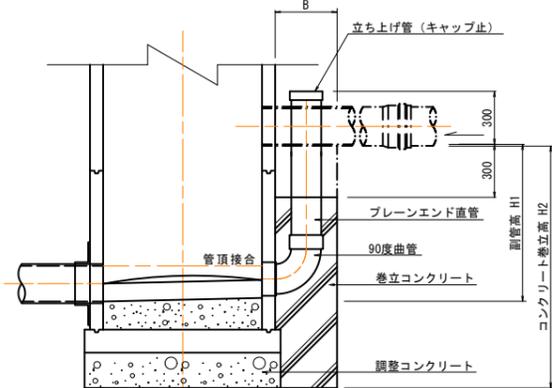


外副管 (C-2タイプ)

平面図

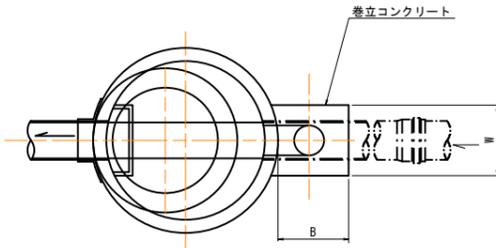


断面図

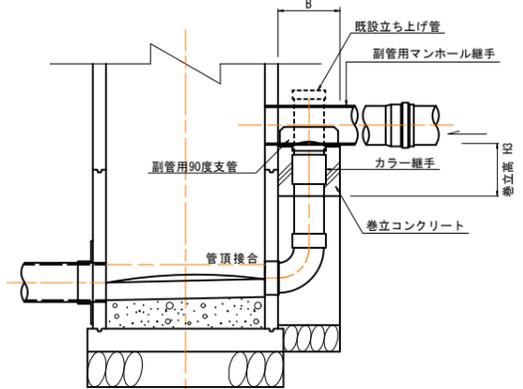


外副管 (D-1タイプ)

平面図

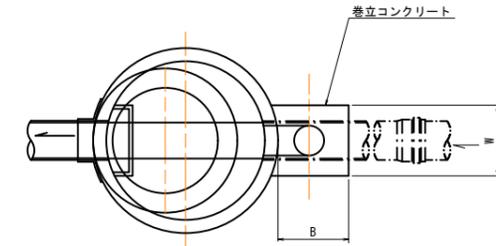


断面図

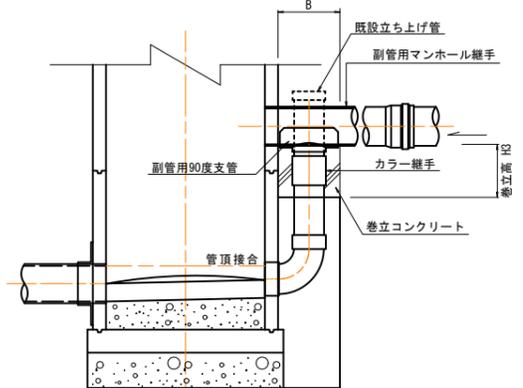


外副管 (D-2タイプ)

平面図

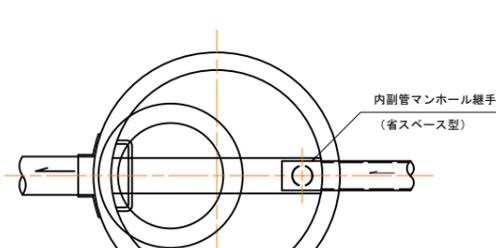


断面図

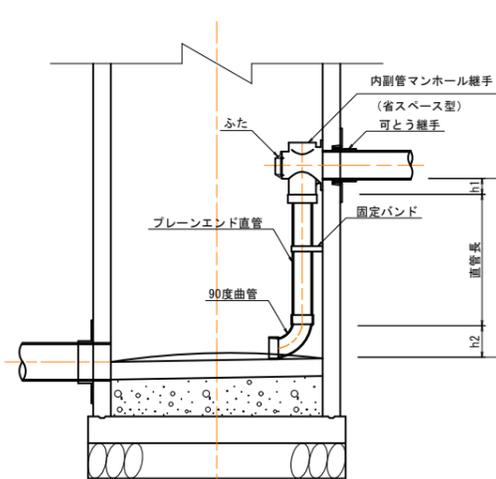


内副管 (Eタイプ)

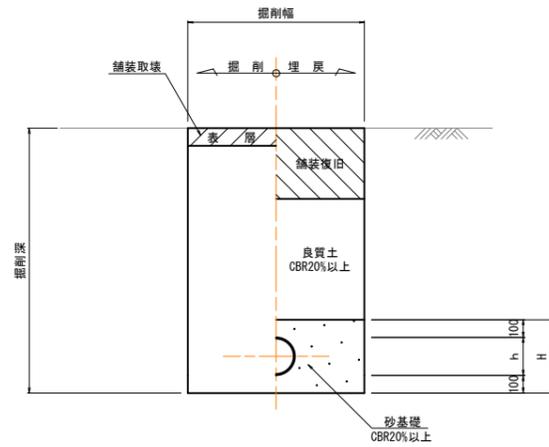
平面図



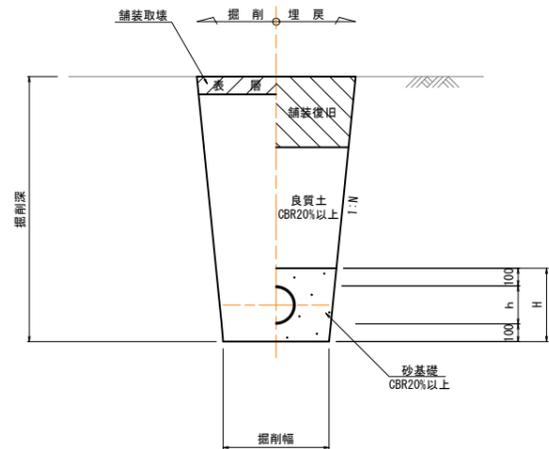
断面図



污水本管・取付管



污水本管・取付管  
(素掘り)



砂基礎寸法表

管径(呼び径)	管外径 h	H	摘要
100	114	314	
150	165	365	
200	216	416	
250	267	467	

掘削底面幅 寸法表 (素掘り)

管径 (mm)	本管		取付管	
	φ150	φ200	φ100	φ150
掘削底面幅 (mm)	600		550	

※上表以外の寸法値を使用する場合には、別途協議すること。

掘削幅一覧表 (軽量鋼矢板建込・打込)

管径 (mm)	φ100							
	0.08m <sup>3</sup>		0.13m <sup>3</sup>		0.28m <sup>3</sup>		0.45m <sup>3</sup>	
BH規格	H≤2.2		H≤2.6		H≤3.3		H≤4.2(3.8)	
掘削深さ (m)	H≤2.2		H≤2.6		H≤3.3		H≤4.2(3.8)	
覆らし材 (mm)	70	110	70	110	70	110	70	110
掘削幅 (mm)	800	800	850	900	1000	1050	1150	1200
管径 (mm)	φ150							
	0.08m <sup>3</sup>		0.13m <sup>3</sup>		0.28m <sup>3</sup>		0.45m <sup>3</sup>	
BH規格	H≤2.2		H≤2.6		H≤3.3		H≤4.2(3.8)	
掘削深さ (m)	H≤2.2		H≤2.6		H≤3.3		H≤4.2(3.8)	
覆らし材 (mm)	70	110	70	110	70	110	70	110
掘削幅 (mm)	850	850	850	900	1000	1050	1150	1200
管径 (mm)	φ200							
	0.08m <sup>3</sup>		0.13m <sup>3</sup>		0.28m <sup>3</sup>		0.45m <sup>3</sup>	
BH規格	H≤2.2		H≤2.6		H≤3.3		H≤4.2(3.8)	
掘削深さ (m)	H≤2.2		H≤2.6		H≤3.3		H≤4.2(3.8)	
覆らし材 (mm)	70	110	70	110	70	110	70	110
掘削幅 (mm)	900	900	900	900	1000	1050	1150	1200

※上表以外の寸法値を使用する場合には、別途協議すること。  
※( )内は建込の場合を示す。

掘削幅 寸法表 (建込簡易土留)

本管径 (mm)	φ150		φ200	
	0.08m <sup>3</sup> ~0.28m <sup>3</sup>		0.08m <sup>3</sup> ~0.28m <sup>3</sup>	
BH規格	H≤3.0		H≤3.0	
掘削深さ (m)	3.0<H≤3.5		3.0<H≤3.5	
掘削幅 (mm)	900	1150	950	1150

※掘削深さが3.5mを超える場合には、別途協議すること。

特記事項

1. 取付管は標準をBH0.13m<sup>3</sup>とし、本管は標準をBH0.28m<sup>3</sup>以上とする。
2. 掘削底面幅及び掘削幅については、参考値である。

出雲市公共下水道事業 標準図

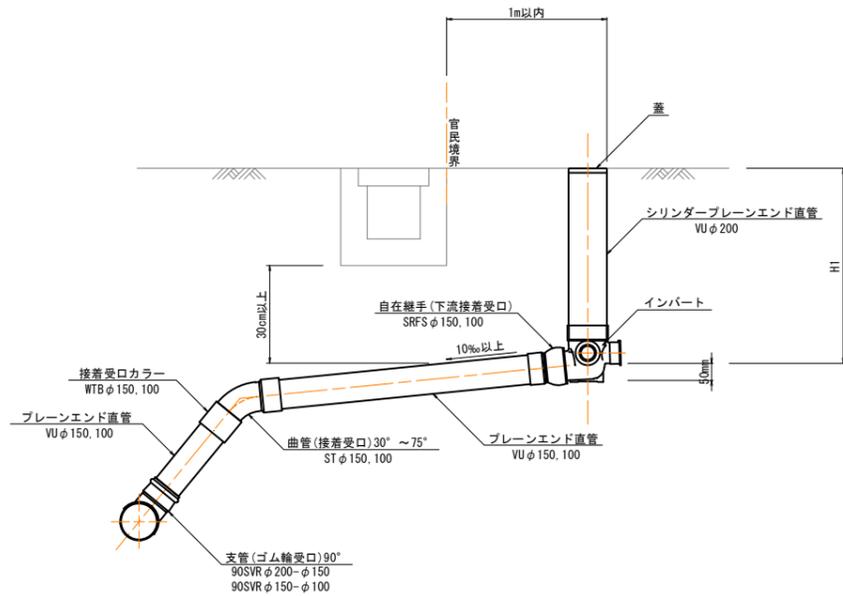
標準図番号	標準図 12
図面名称	土工標準図
図面番号	全 葉の内

# 公共ますおよび取付管標準図(本管取付)

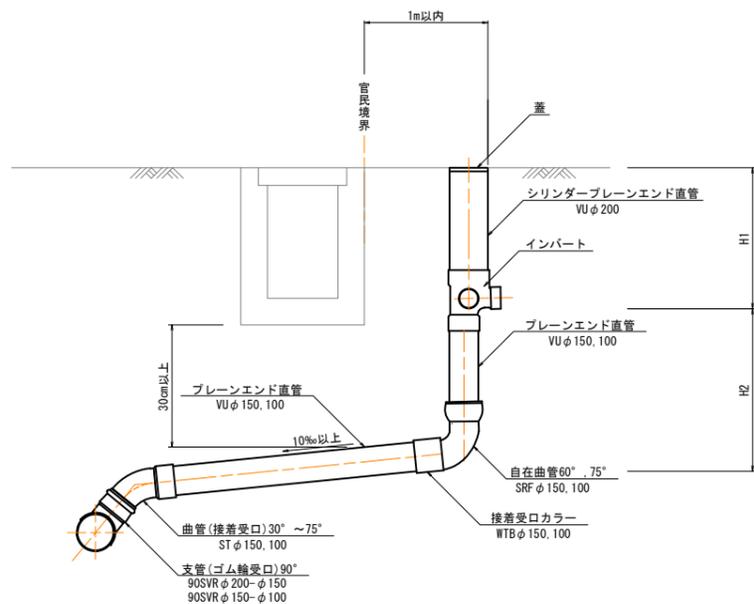
## 本管取付標準図

S=1/20

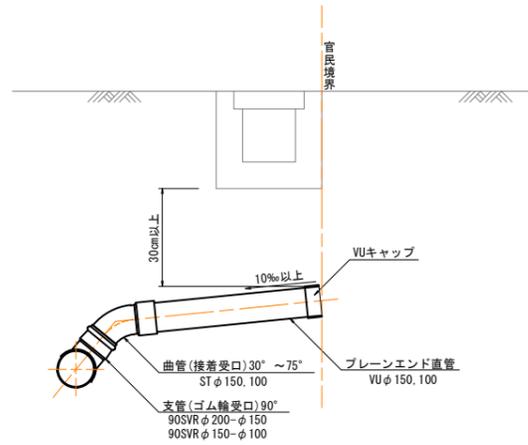
### 標準タイプ



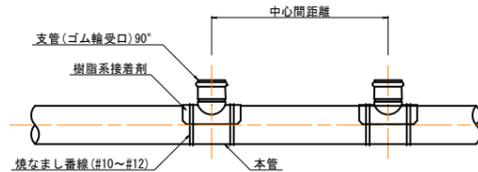
### ドロップタイプ



### キャップ止タイプ



### 取付詳細図



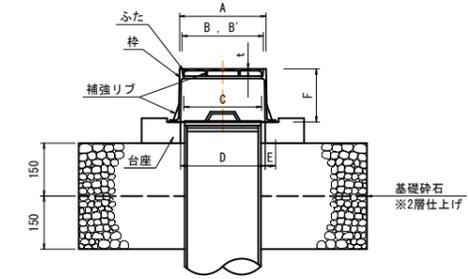
支管取付け孔の中心間距離	
支管の呼び径	孔の中心間距離
150以下	本管軸方向に70cm以上
200	本管軸方向に90cm以上

## 公共ます鉄ふた

S=1/10

### 標準型防護ふた

(T-25、T-14)



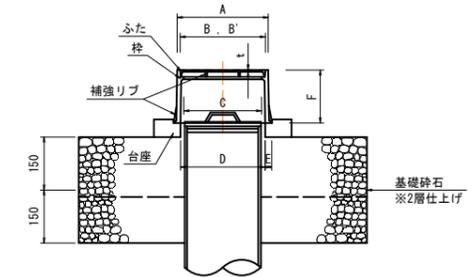
標準型防護ふた (T-14、T-25) 寸法表

(単位: mm)

呼び	A (最小)	B B' (最小)	C (最小)	D (最小)	E (最小)	高さ		t (最小)
						F	許容差	
200	245	231	220	240	30	150	±2.5	5

### 標準型防護ふた

(T-8)



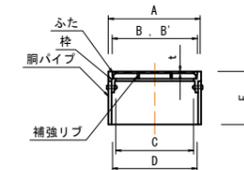
標準型防護ふた (T-8) 寸法表

(単位: mm)

呼び	A (最小)	B B' (最小)	C (最小)	D (最小)	E (最小)	高さ		t (最小)
						F	許容差	
200	258	242	220	240	12	150	±2.5	4

### 簡易型防護ふた

(T-8)



簡易型防護ふた (T-8) 寸法表

(単位: mm)

呼び	A (最小)	B B' (最小)	C (最小)	D (最小)	高さ		t (最小)
					F	許容差	
200	263	242	220	250	150	±2.5	4

### 特記事項

- マンホールに直接接続する場合は原則管頂接続とし、落差が600mm以上となる場合は副管構造とする。
- ます深さ(宅内管)と取付段差は、50mmとする。
- 取付管止めの施工(キャップ止め)については、現地に、杭・板などを打っておくこと。
- 浄化槽が、現地に設置されている場合は、排水口の口径および流入高さを必ず確認すること。
- 取付管の管径は、次のとおりとする。  
本管 200以上 → 取付管 150  
本管 150 → 取付管 100
- H=2.0m以上の場合は、0号組立マンホールを標準とする。
- 取付管勾配は10%以上とし、本管中心線より上方で取付けること。
- 取付段差(H2)が500mm以上ある場合は、ドロップタイプの使用を原則とする。
- 公共ますに鉄蓋(T-8)を使用する場合は、簡易型・防護型どちらを使用してもよい。

### 出雲市公共下水道事業 標準図

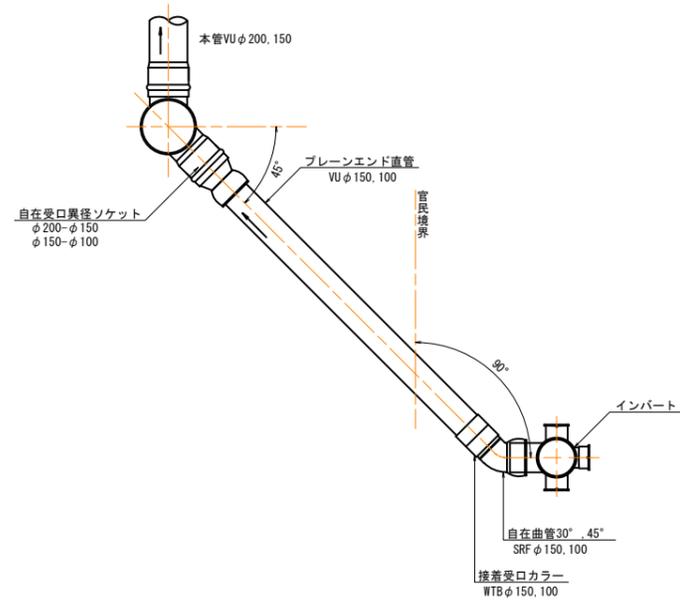
標準図番号	標準図 13
図面名称	公共ますおよび取付管標準図(本管取付)
図面番号	全 葉の内

# 公共ますおよび取付管標準図(人孔取付)

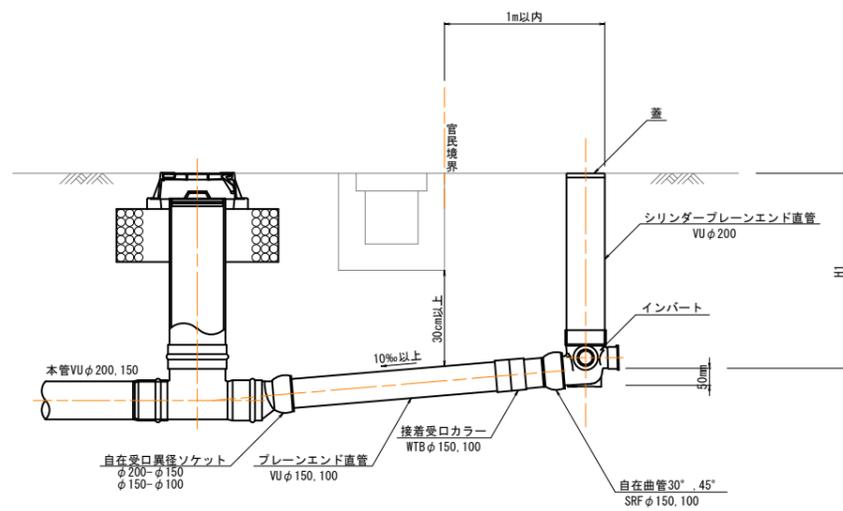
S=1/20

## 起点人孔取付標準図 (塩ビマンホール)

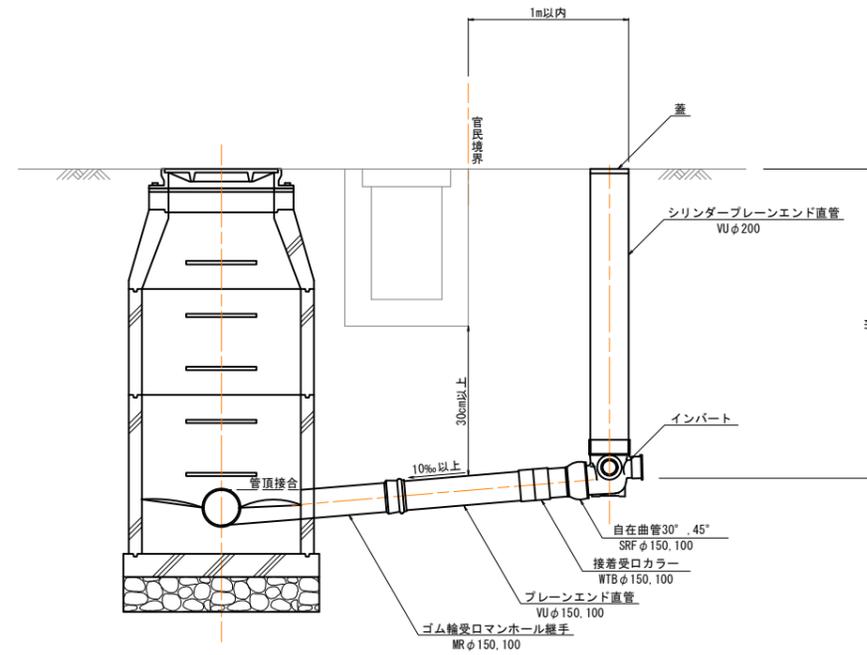
平面図



断面図



## 人孔取付標準図 (組立マンホール)



注) 人孔取付の場合の取付管の接合は、流出側汚水本管に対して管頂接合とする。

### 特記事項

- マンホールに直接接続する場合は原則管頂接合とし、落差が600mm以上となる場合は副管構造とする。
- ます深さ(宅内管)と取付段差は、50mmとする。
- 取付管止めの施工(キャップ止め)については、現地に、杭・板などを打っておくこと。
- 浄化槽が、現地に設置されている場合は、排水口の口径および流入高さを必ず確認すること。
- 取付管の管径は、次のとおりとする。  
本管 200以上 → 取付管 150  
本管 150 → 取付管 100
- H=2.0m以上の場合は、0号組立マンホールを標準とする。
- 取付管勾配は10%以上とし、本管中心線より上方で取り付けること。
- 取付段差(H2)が500mm以上ある場合は、ドロップタイプの使用を原則とする。
- 公共ますに鉄蓋(T-8)を使用する場合は、簡易型・防護型どちらを使用してもよい。

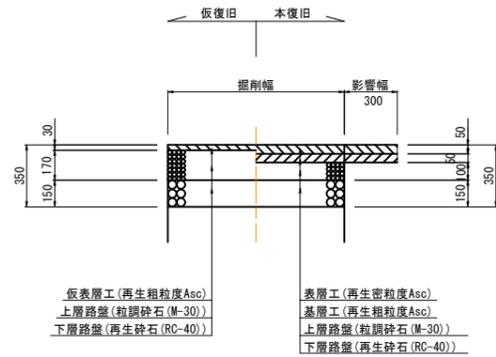
### 出雲市公共下水道事業 標準図

標準図番号	標準図 14
図面名称	公共ますおよび取付管標準図(人孔取付)
図面番号	全 葉の内

# 舗装復旧図

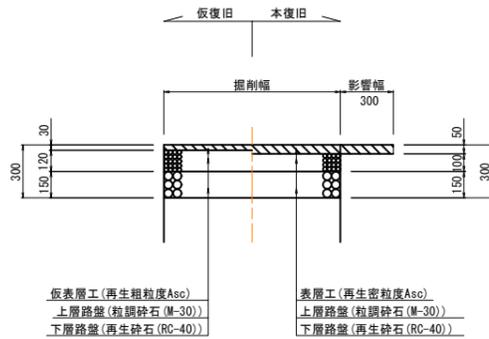
S=1/20

## ① 2車線の市道施工箇所 (単車線5.5m以上を含む)

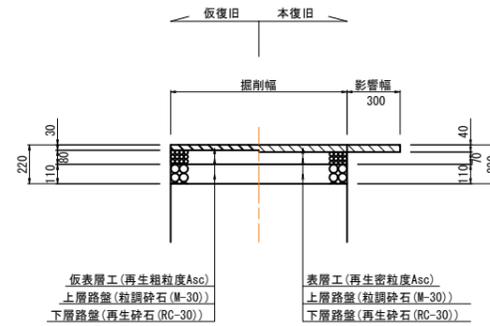


## 幅員5.5m未満の市道施工箇所

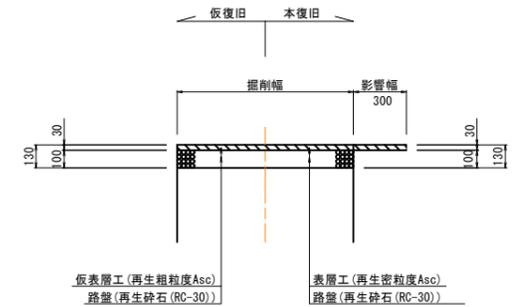
### ② 市道 車道部(単車線) 幅員W ≥ 4.0m



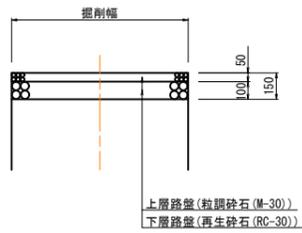
### ③ 市道 車道部(単車線) 幅員W < 4.0m



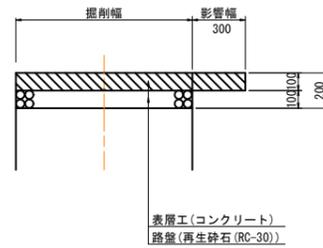
## ④ 歩道(一般部)



## ⑤ 砂利道施工箇所



## ⑥ コンクリート施工箇所



歩道、車両乗り入れ部における舗装復旧構成表

	表 層	路 盤
2t車以下の車両の乗り入れを考慮する場合	3cm (再生密粒度Asc)	10cm (再生砕石)
2~4t車以下の車両の乗り入れを考慮する場合	4cm (再生密粒度Asc)	15cm (再生砕石)
上記以外 (大型車の乗り入れを考慮する場合)	5cm (再生密粒度Asc)	(上層) 10cm (粒調砕石)
		(下層) 10cm (再生砕石)

### 特記事項

- 舗装構成は撤去時に各層厚を確認し、復旧舗装構成について監督員と協議すること。
- 舗装撤去・復旧範囲は、影響部分の端から絶縁線(舗装切断線を含む。)までの距離が1m未満の場合、絶縁線(舗装切断線を含む。)までとする。(詳細については、各現場ごとに監督員と協議すること。)
- 舗装撤去・復旧範囲は、2車線道路の場合には監督員と協議の上、1車線単位とする。
- 仮復旧において、常混合材は使用しないこと。

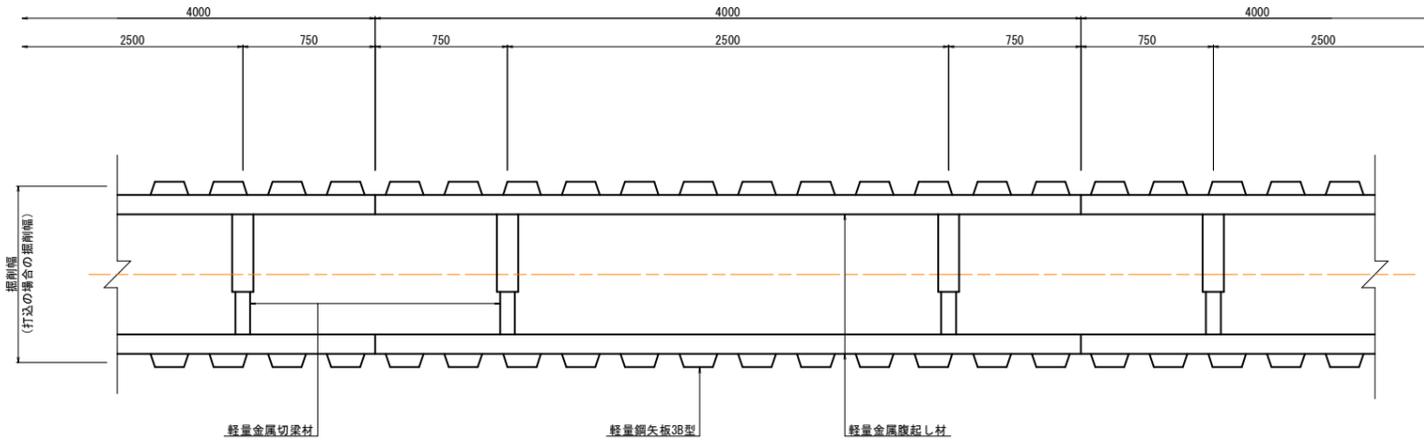
### 出雲市公共下水道事業 標準図

標準図番号	標準図 15
図面名称	舗装復旧図
図面番号	全 葉の内

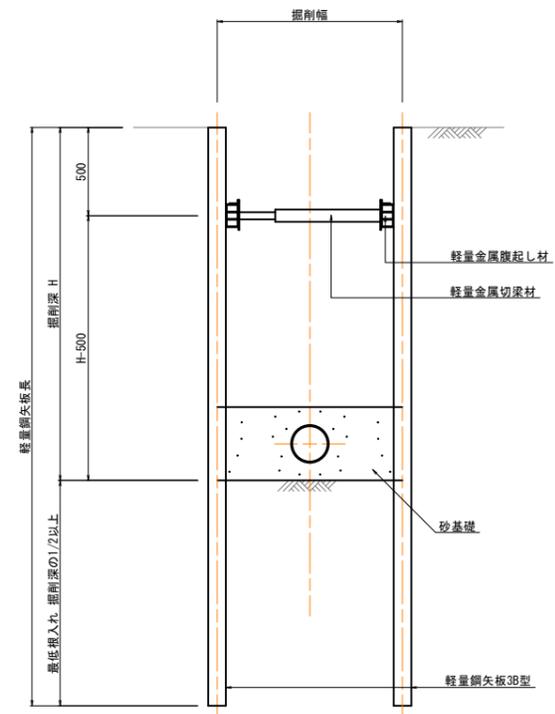
# 土留工標準図(軽量鋼矢板打込)

S=1/20

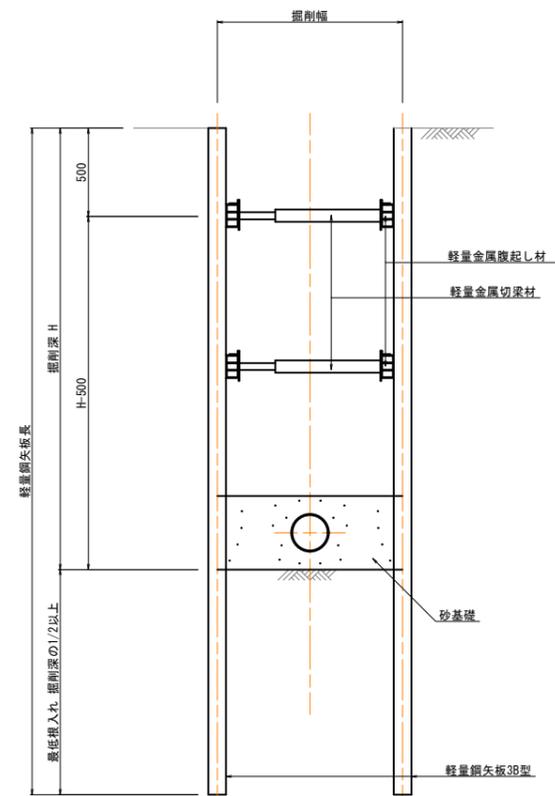
軽量鋼矢板仮設図



断面図(打込工)



断面図(打込工)



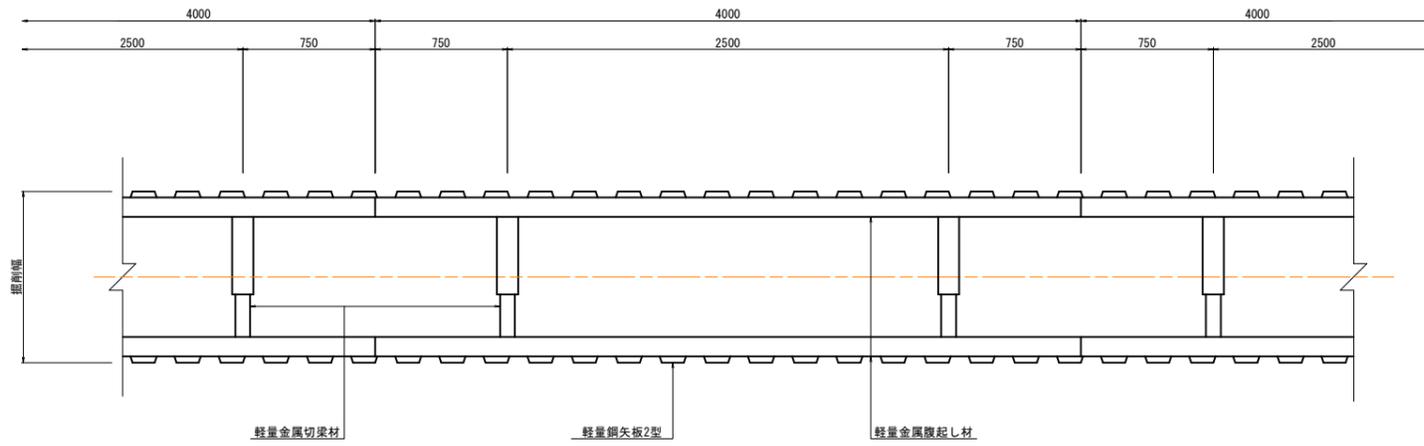
(参考図)

特記事項		出雲市公共下水道事業 標準図	
1. 1段目の支保工は、矢板天端-0.5mとする。 2. 段数・規格は構造計算による。支保工配置は、腹起長4.0m・切梁間隔2.5mとする。		標準図番号	標準図 16
		図面名称	土留工標準図 (軽量鋼矢板打込)
		図面番号	全 葉の内

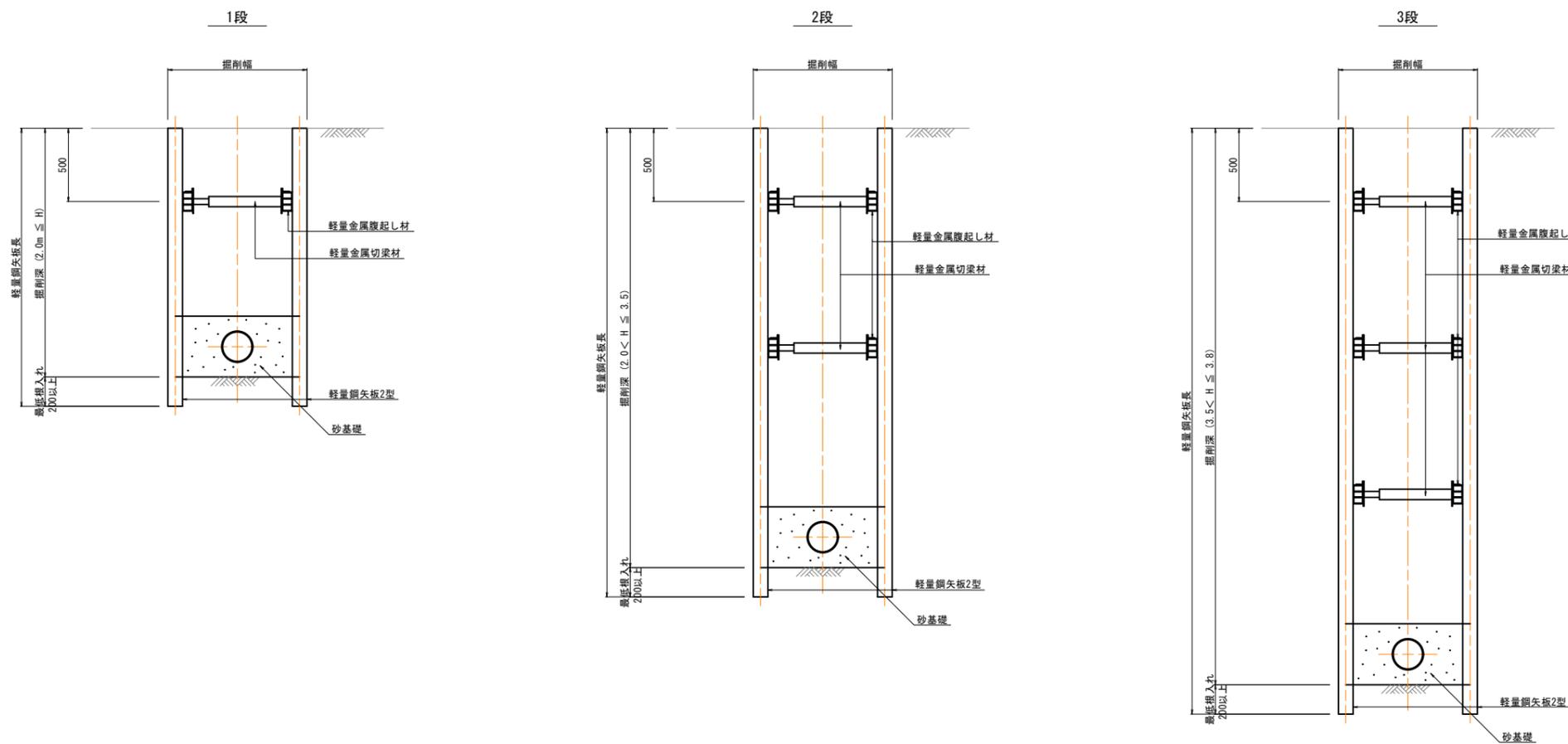
# 土留工標準図(軽量鋼矢板建込)

S=1/20

軽量鋼矢板仮設図



軽量鋼矢板建込み



軽量鋼矢板建込の支保工段数

掘削深 (H)	支保工段数
~2.0m ≤ H	1段
2.0 < H ≤ 3.5	2段
3.5 < H ≤ 3.8	3段

(参考図)

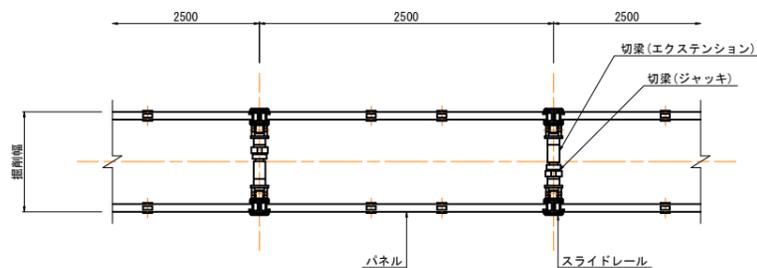
特記事項		出雲市公共下水道事業 標準図	
1. 1段目の支保工は、矢板天端-0.5mとする。 2. 段数・規格は構造計算による。支保工配置は、腹起長4.0m・切梁間隔2.5mとする。		標準図番号	標準図 17
		図面名称	土留工標準図 (軽量鋼矢板建込)
		図面番号	全 葉の内

# 土留工標準図(建込簡易土留)

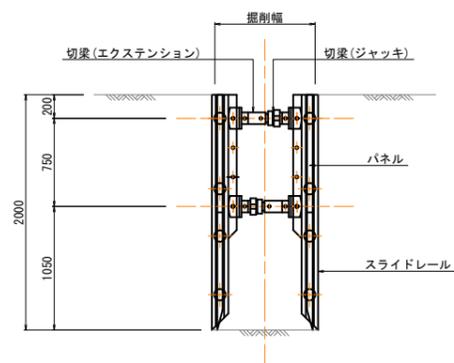
S=1/30

H=2.0m以下

平面図

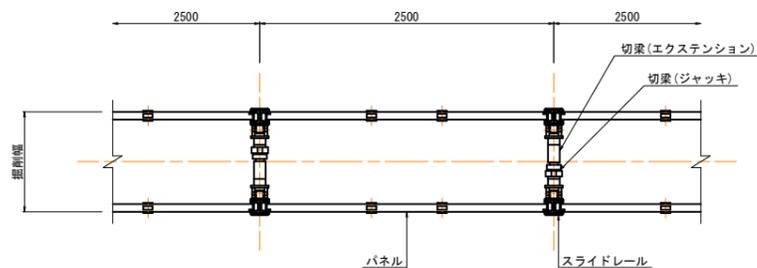


断面図

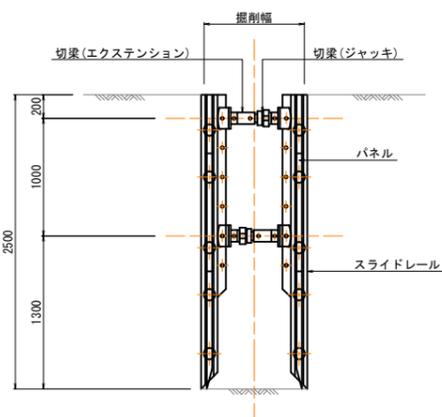


H=2.5m以下

平面図

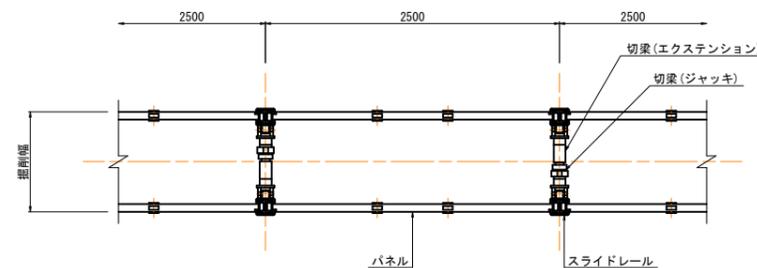


断面図

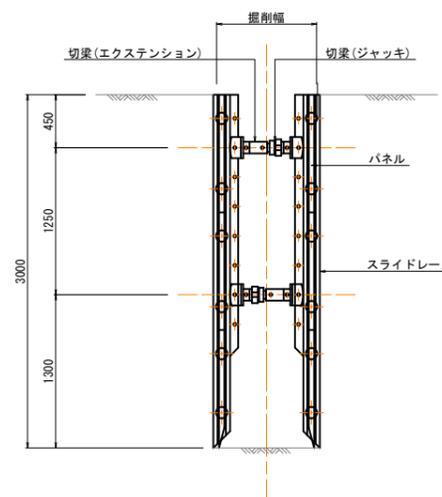


H=3.0m以下

平面図

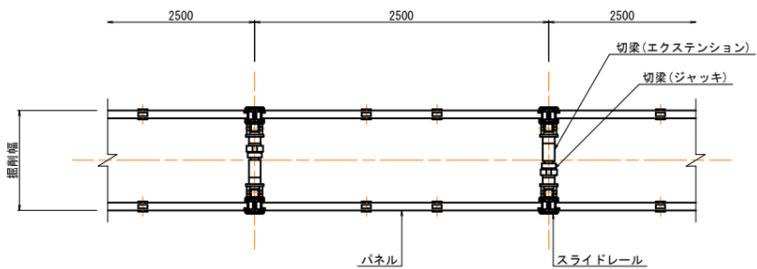


断面図

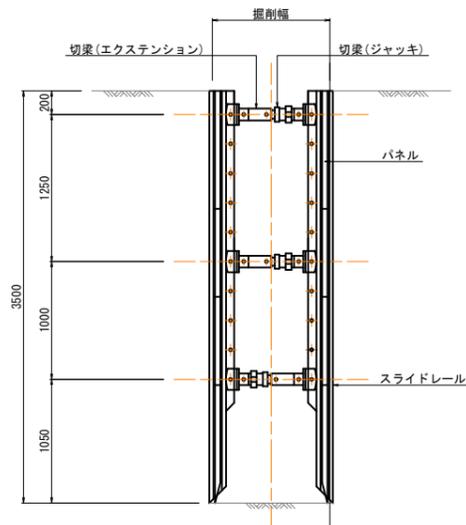


H=3.5m以下

平面図



断面図



(参考図)

特記事項		出雲市公共下水道事業 標準図	
		標準図番号	標準図 18
		図面名称	土留工標準図 (建込簡易土留)
		図面番号	全 葉の内

平面図 S=1:500

横断面図 S=1:100

凡 例	
	汚水実施管
	汚水計画管
	汚水既設管
	2号マンホール
	1号マンホール
	横四マンホール
	塩ビマンホール
	水道管
	ガス管
	NTTケーブル

公共ます凡例	
	横 型
	縦 型
	鉄 蓋
	キャップ止め

縦断面図 V=1:100  
H=1:500



DL= m

路線番号	
管路番号	
管種・管径	
勾配	
区間距離	
地盤高 (m)	
土被り (m)	
管底高 (m)	
掘削深 (m)	
追加距離 (m)	
単距離 (m)	
マンホール番号	

年度	令和	年度	
事業名	出雲市公共下水道事業		
路線名			
工事場所	出雲市 地内		
図面名称	平面図・縦断面図・横断面図 <small>縮尺 図示</small>		
図面番号	全 葉の内		
課長	係長	担当	

# 設計一覧表

NONSCAL

設計一覧表

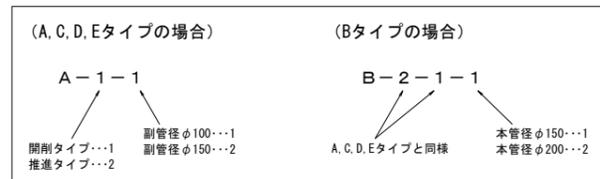
路線名	スパン	耐震レベル	管種 管径	管路延長 (m)	管体延長 (m)	推進延長 (m)	管路勾配 (‰)	標準図													ボーリング No.			
								土工標準図		各種マンホール構造図			副管標準図			土留工標準図(参考図)				舗装復旧図				
								掘削幅 (m)	埋戻土	MH 番号	MH タイプ	MH深 (m)	副管			土留材		支保材		舗装タイプ				
													流入管 管番号	※ 副管高 (m)	副管 タイプ	副管 番号	土留 タイプ	矢板又は パネル長 (m)	段数			腹起し	切梁間隔 (m)	

## 出雲市公共下水道標準図

### 使用図面一覧

図面番号 標準図	図面名称	使用図面
1	管布設工標準図	
2	0号組立マンホール構造図	
3	楕円組立マンホール構造図	
4	1号組立マンホール構造図	
5	2号組立マンホール構造図	
6	小型(塩ビ製)マンホール構造図	
7	鉄蓋表面デザイン図(φ600)	
8	鉄蓋表面デザイン図(φ300)	
9	マンホール鉄蓋蝶番及び足掛金物位置図、組立マンホール底部工標準図	
10	副管標準図(1)	
11	副管標準図(2)	
12	土工標準図	
13	公共ます及び取付管標準図(本管取付)	
14	公共ます及び取付管標準図(人孔取付)	
15	舗装復旧図	
16	土留工標準図(軽量鋼矢板打込)(参考図)	
17	土留工標準図(軽量鋼矢板建込)(参考図)	
18	土留工標準図(建込簡易土留)(参考図)	
	標準図計	枚

副管タイプ 凡例



※ Dタイプの副管を使用する場合は、副管高を巻立高に読み替えることとする。

年度	令和	年度	
事業名	出雲市公共下水道事業		
路線名			
工事場所	出雲市	地内	
図面名称	設計一覧表 縮尺 図示		
図面番号	全 葉の内		
課長		係長	担当

# 設計一覧表

NONSCAL

設計一覧表

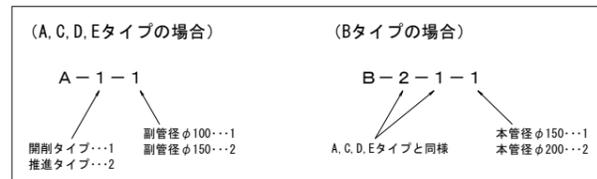
路線名	スパン	耐震レベル	管種管径	管路延長(m)	管体延長(m)	推進延長(m)	管路勾配(‰)	標準図												舗装復旧図	ポーリング		
								土工標準図		各種マンホール構造図			副管標準図				土留工標準図(参考図)					舗装タイプ	
								掘削幅(m)	埋戻土	MH番号	MHタイプ	MH深(m)	副管			土留材		支保材					
													流入管管番号	※副管高(m)	副管タイプ	副管番号	土留タイプ	矢板又はパネル長(m)	段数				腹起し
〇〇幹線	M0~M1	1・2	VPφ200	52.00	50.95	50.10	2.0	—	—	既M0	1号	3.865	1234	0.75	D-2-2	70	—	—	—	—	—	③	BP.1
										M1	1号	3.105	1234-S1	1.71	C-2-1	170							
													1235-S2	0.37	D-2-1	30							
〇〇準幹線	M0~M1	1	VUφ200	21.40	20.50	—	2.0	1.05	流用土	M1	1号	2.095	1051	0.61	A-1-1	60	打込	4.0	1	70	2.5	③	BP.1
													1052	0.85	A-1-1	80							
〇〇管渠	M0~M1	1	VUφ200	40.00	39.40	—	2.0	1.05	購入土	M1	小型	1.501	—	—	—		建込	2.0	1	70	2.5	⑤	BP.2
	M1~M2	1	VUφ200	31.60	31.00	—	2.0	1.05	購入土	M2	1号	1.452	—	—	—								

## 出雲市公共下水道標準図

### 使用図面一覧

図面番号	図面名称	使用図面
標準図		
1	管布設工標準図	○
2	0号組立マンホール構造図	
3	楕円組立マンホール構造図	
4	1号組立マンホール構造図	○
5	2号組立マンホール構造図	
6	小型(塩ビ製)マンホール構造図	○
7	鉄蓋表面デザイン図(φ600)	○
8	鉄蓋表面デザイン図(φ300)	○
9	マンホール鉄蓋蝶番及び足掛金物位置図、組立マンホール底部工標準図	○
10	副管標準図(1)	○
11	副管標準図(2)	
12	土工標準図	○
13	公共ます及び取付管標準図(本管取付)	
14	公共ます及び取付管標準図(人孔取付)	
15	舗装復旧図	○
16	土留工標準図(軽量鋼矢板打込)(参考図)	○
17	土留工標準図(軽量鋼矢板建込)(参考図)	
18	土留工標準図(建込簡易土留)(参考図)	
標準図計		10枚

副管タイプ 凡例



※ Dタイプの副管を使用する場合は、副管高を巻立高に読み替えることとする。

(記入例)

年度	令和	年度	
事業名	出雲市公共下水道事業		
路線名			
工事場所	出雲市	地内	
図面名称	設計一覧表		
図面番号	全葉の内		
課長	係長	担当	